

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2007年度 No.61

第23回 中国地区高等専門学校英



徳山工業高等専門学校

目次

ホームページTop Newsで綴る徳山高専この1年!!	2
デザインコンペティション2007 in 周南	7
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	18
第23回中国地区高等専門学校英語弁論大会	20
やったぜ!悲願の全国制覇達成!!(全国高専体育大会バレーボール)	22
秋田県わか杉国体なぎなた出場	26
就職・進学状況	27
就職・進学試験体験記	32
卒業生だより	37
退職者あいさつ	40
新任者紹介	42
編集後記	48



校舎改修中の様子(平成20年1月撮影)

ホームページTop Newsで綴る 徳山高専この1年！！

「キャンパスベンチャーグランプリ中国」の3部門で優秀賞受賞



2007年2月2日

中国地域の学生のベンチャー意欲を高めることを目的としたC V G中国の表彰式が行われ、3部門で徳山高専発のアイデアが優秀賞を受賞しました。これは、アイデアがユニークで優れていることを示し、いずれも特許出願済みです。特に宮本君のアイデアは既に特許査定を受け、正式に特許として認められています。本校が力を注ぐ創造教育により、これからも社会に役立つアイデアの創出が益々期待されます。（新技術部門優秀賞：機械電気工学科5年柳啓二君、ニュービジネス部門優秀賞：機械電気工学科2年宮本晃成君、環境・健康・福祉部門優秀賞：広島大学大学院（本校専攻科卒）兼行秀和君）

ベトナムでのプログラミングコンテスト実現に向けて協力



2007年2月28日

全国高専プログラミングコンテスト委員会の派遣で、副委員長の長岡高専山崎教授とともに情報電子工学科の重村哲至先生がハノイ工科大学を訪問しました。これはベトナムでも高専プロコンのような大会を開きたいとの希望があり、「プロコンの国際化を支援する会」からの依頼で詳細説明を行ったものです。ベトナムの大学関係者は日本の活動を熱心に聞き入り、今後の高専プロコンのグローバルな広がりが期待されます。

みんなに見守られて旅立つ卒業・修了式



2007年3月13日

第29回卒業式及び第11回専攻科修了式が厳粛に執り行われました。凛とした空気の中、本科卒業生120名に卒業証書が、専攻科修了生25名に専攻科修了証書とJ A B E Eプログラム修了証が校長から一人ひとりに手渡されました。卒業生、修了生は多くの思い出と希望をそれぞれの胸に抱き、自信と誇りを持って旅立ちました。

みんな元気で！共に未来を創る同志として歩もう 天野校長離任式



2007年3月30日

桜ほころぶこの日、みんなに愛された天野校長が本校を去りました。徳山高専校長として5年3ヶ月の間、映画「ロボコン」の誘致と出演、サテライト「高専夢広場」の開設、J A B E Eプログラム認定、各大学や周南市との協定の締結、国際会議I S E C03の開催、学園台への改称もありました。学生達と毎日交流し、クラブ顧問としても活躍されるなど、数え上げればきりが無い程の充実した時間でした。

入学おめでとう！



2007年4月4日

第34回入学式及び第13回専攻科入学式が行われました。機械電気工学科47名、情報電子工学科43名、土木建築工学科45名、留学生4名、編入学生4名、転入学生1名、機械制御工学専攻6名、情報電子工学専攻2名、環境建設工学専攻8名、計160名の入学が許可されました。新入生の皆さん入学おめでとうございます。

中四国専攻科研究交流会専攻科生16名が研究発表！



2007年4月28日～29日

研究交流会が米子高専で開催されました。過去最高の320名（15校）が集まり、本校からは専攻科2年生16名が参加しました。特別研究の中間発表を兼ねた今回の交流会では、各自が10分のプレゼンを行い、また本校幹事の森山君（環境建設）が紹介スライドでデザコン開催等をPRしました。

留学生、母国を熱く紹介！



2007年6月30日

母国から離れて徳山高専で勉学に励んでいる6ヶ国7人の留学生とサテライト委員の学生・教職員が協力し、周南市市民交流センターで「留学生のふるさと展」を開催しました。プレゼンテーションで母国を熱く紹介した後、留学生は母国紹介パネルの前で、来場された方々からの質問に答えたり、歓談したりして、楽しい交流のひとつを持つことができました。

中国・四国工学教育協会賞受賞！



2007年7月4日

情報電子工学科重村准教授らのグループは、教育用コンピュータ開発プロジェクトを立ち上げ、情報処理技術者の基礎教育に適したコンピュータを開発し、当該学科低学年の基礎教育や高学年の演習機材として活用しています。情報系、電子系技術者のコンピュータ教育に有効な教育用コンピュータシステムとカリキュラムを構築し、情報処理教育の改善に大きく寄与したことが認められ、中国・四国工学教育協会賞を受賞しました。

中国地区高専体育大会 団体優勝4チーム、個人戦優勝11種目



2007年7月6日～8日

本校主管（協力：呉高専、大島高専）で行われた中国地区高専体育大会で、団体戦は4種目（バレーボール部、卓球部、硬式野球部、サッカー部）が優勝、個人戦においては11種目（陸上4種目、水泳4種目、テニス2種目、卓球1種目）で優勝し、20種目の競技で全国大会への出場を決めました。

やったぜ！バレー部悲願の全国制覇達成！！



2007年8月18日～19日

高知県南国市で開催された第42回全国高専体育大会バレーボール競技において、バレーボール部が見事優勝を勝ち取りました。準決勝では昨年度優勝チームの都城高専と対戦し、セットカウント2-1で厳しい接戦を制して決勝戦へとコマを進め、決勝戦では強豪神戸高専と対戦し、セットカウント2-0で完勝しました。たくさんの熱い応援をうけ、3年ぶりに悲願の全国制覇を達成しました。

優勝、準優勝を周南市長に報告



2007年9月14日

平野校長ほかバレーボール部の主力選手、硬式野球部の主将、両部の監督ら13名が周南市役所を訪問し、8月に四国で開催された第42回全国高専体育大会でバレーボール部が優勝、硬式野球部が準優勝を果たしたことを島津市長に報告しました。優勝カップやメダルを手に訪れた選手は、緊張の面持ちで大会の戦績や練習の苦労話を語り、市長からは、「大きな成果で誇りに思う。今後も良い成績が続くように！」とねぎらいの言葉をいただきました。

祝 国体出場！



2007年9月30日～10月2日

秋田県で開催された第62回国民体育大会なぎなた競技に山口県代表として土木建築工学科2年椎木英理子さん（剣道部所属）が出場しました。8月に佐賀県で開催されたインターハイ出場に続く快挙です。椎木さんは団体試合と演技競技に出場し、団体戦では大将として活躍しました。なぎなたに関心のある方、椎木さんと一緒になぎなたにチャレンジしてみませんか？

おめでとう！ユニバーサル賞受賞第1回学生3Dデザインコンテスト

2007年10月5日



「第1回学生3Dデザインコンテスト」(主催：3D Design Contest実行委員会、協賛：ソリッドワークス・ジャパン(株)、日本ヒューレット・パッカーカード(株)他)において、機械電気工学科5年武永洋介君の「指に優しい携帯電話」が、テーマ部門で大賞に次ぐユニバーサル賞を獲得しました。これまでの製図の授業等で携帯電話のアイデアを試行錯誤してきた結果、SolidWorksを使った携帯電話のデザインにおいて、使いやすいボタン配置のアイデアが評価されました。また今春、情報電子工学科を卒業した木村優之君の「壁を上るロボット」も自由作品部門で優秀賞を受賞しました。

ニューメディア同好会 プロコン「課題部門」で優秀賞受賞

2007年10月6日～7日



津山市で開催された全国高専第18回プログラミングコンテストで、ニューメディア同好会の作品「おはじきぼっちゃん」が課題部門の優秀賞を受賞しました。この作品は、テーブルの上にプロジェクターで投影されたコンピュータ映像の中で子供がおはじきで遊ぶものです。課題部門テーマ「子供心とコンピュータ」をよく反映した独創的で完成度の高い作品と評価され、学外のイベントや高専祭でも実演しました。同好会の今後の活躍が期待されます。

第33回高専祭「Thumbs-Up!」でサプライズ!?

2007年11月3日～4日



秋晴れの下、「Thumbs-Up!」をテーマに第33回高専祭が行われました。学生の企画・運営による年に一度のお祭りです。恒例の市民参加のロボットコンテスト、バンド演奏、ファッションショーなどの企画の他、今年は後夜祭の最後で打ち上げ花火が晩秋の夜空を彩って大いに盛り上がり、2日間に渡って若者の元気の活動が繰り広げられました。

高専デザインコンペティション 2007 in 周南 開催

2007年11月17日～18日



人と人や自然と人間社会の「つながり」をテーマに、「頭の中は宇宙(そら)より広い!」をキャッチフレーズに「高専デザインコンペティション(デザコン)2007 in 周南」が開催されました。本デザコンでは、構造デザイン、環境デザイン、空間デザイン、ものづくりの4部門において、全国から集まった高専生の創造性と技術力が競われました。このデザコンに関連して、開催地である山口県や周南市では、市民や小中学生を対象に、デザコンを通じて科学技術やものづくりへの関心を深めて頂くことを目的としたプレイベントやポストイベントも行われました。

第1回目の全国大会のチケットゲットだぜ！

第23回 中国地区高等専門学校英



2007年11月17日～18日

津山高専で開催された中国地区高専英語弁論大会の暗唱部門に情報電子工学科5年の福田弓恵さん、土木建築工学科5年の嶋本彩乃さんが、スピーチ部門に情報電子工学科5年の岡田珠誉さん、土木建築工学科4年の吉永晴香さんが出場し、4人とも最高のスピーチを披露。吉永さんがスピーチ部門で優勝、福田さんが暗唱部門で3位に入賞しました。吉永さんは昨年度の暗唱部門優勝に続き、両部門制覇の快挙。吉永さんは、来年1月26日（土）、27日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される「第1回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト」に参加します。

やったね、日野君！ボーイスカウト特別海外派遣に選ばれる



2007年12月5日

ボーイスカウト日本連盟ベンチャースカウト年代の最高峰となる富士章を昨年6月に取得した機械電気工学科4年日野尚武君が、平成19年度、全国で2名の特別海外派遣員に選ばれました。

12月15日から3週間、一人でニュージーランドを訪れ、自ら企画・計画した「環境問題」をテーマにしたプロジェクトを実施します。現地では、世界遺産に登録されているミルフォードトラックのトレッキングや氷河ウォーク、ホームステイにより、これまでの活動を通じて体得した知識・技能を一層高めるとともに、現地の人との交流を通して、国際理解と友情を深めることを目標としています。

11月12日に東京での任命式に出席し、12月5日に県教育長を訪れ出発の報告をしました。

デザインコンペティション2007 in 周南

「全国高等専門学校 デザインコンペティション 2007 in 周南」を終えて

デザコン2007 実行委員長
土木建築工学科 教授 田村 隆弘

平成19年11月16日、17日の両日、周南市総合スポーツセンターを会場にして「全国高等専門学校デザインコンペティション(デザコン)2007 in 周南」を開催しました。9月に行われた予選を勝ち抜いた110(構造部門は、各学校代表)の作品が集まり、全国から約450名(33高専)の学生、教職員と、大会にご支援いただいたご来賓(約50名)を、本校を挙げてお迎えする一大イベントでした。2日間に渡る大会は天候にも恵まれ、オープニングから閉会式まで、滞り無く終わることが出来ました。

■大会の歴史と本大会の概要

この大会は、昭和52年から建築系の学科が実施してきた研究交流シンポジウムを、全ての学科が参加できるように、デザインの領域を「人が生きる生活環境を構成するための総合的技術」と捉え、平成16年から「全国高等専門学校デザインコンペティション」として生まれたものです。本大会は、2年前(平成14年)の明石大会における全国実行委員会議で第4回大会として徳山高専を主管校とし、開催することが正式決定され実施に至ったものです。

これまで、この大会の構造デザイン部門の優勝作品には文部科学大臣賞が授与されてきましたが、今回の大会から環境デザイン部門に国土交通大臣賞も頂けることになりました。その結果、この大会では、表-1に示すような4つの部門の最優秀作品に、それぞれ、大臣賞や県知事、あるいは市長賞が授与されました。

表-1 各部門の最優秀賞に与えられる表彰と今大会での受賞校、作品名

構造デザイン部門	文部科学大臣賞	米子高専	オリガネ、米子ブリッジ
環境デザイン部門	国土交通大臣賞	松江高専	世界遺産「石見銀山街道」を照らすLEDラトウ
空間デザイン部門	山口県知事賞	米子高専	もうひとつのまち
ものづくり部門	周南市長賞	米子高専	play*search

周南大会のメインテーマは「つながり」、身近な言葉ですが、しかし、奥の深いテーマです。そして、キャッチフレーズは、高専生が日頃培った技術と創造力と、そして、感性をフルに発揮してもらいたいといった気持ちを込めて「頭の中は、宇宙(ソラ)より広い!」としました。大会ではこのキャッチフレーズの期待通り、審査員も絶賛するアイデアが盛りだくさんの作品と楽しいイベントで盛り上がりました。

■会場準備

総合スポーツセンターを借り切ったの大会準備は、学生・教職員総動員で大会前日(11/15)の午後を全学休校にしての大仕事でした(写真1参照)。学年・クラス毎に役割を分担し、競技やイベントのための資材運送・会場設営を行いました。学生実行委員のメンバーも臨機応変にそれぞれの役割を積極的にこなしてくれました。前日に行ったリハーサルでは、オープニングの確認が入念に行われました。



写真1
会場準備風景(左上:メインアリーナ、右上:多目的ホール、
左下:北広場、右下:多目的ホールウェルカムパーティー会場)

■受付

総合受付では、ご来賓から競技参加者、そして一般市民まで、500人以上の来場者に学生と教職員で対応しました。来場者を迎えるにあたり、一色先生による事前マナー教育が行われ、スーツ姿の4年生が緊張感を持って取り組みました（写真2）。



写真2
来賓受付風景

■開会式（写真3）

参加者全員が司会の池内アナウンサー（K R Y）の合図で、本校学生の手作りによるLEDキーホルダーの光をシンクロさせた後、特大スクリーンに映し出された（松本八希君（IE2）が中島みゆきさんの「糸」の曲に載せ「大会テーマ“つながり”」をイメージして製作した）プロモーション映像（写真4）や、学生実行委員長長の田中美里さん（CA4）の「あなたは、誰とつながっていますか・・・」とインターネット時代をテーマに人々の心に問いかけるメッセージ、そして足元から浮かび上がるLEDモニュメントで演出したオープニング（開会式）は、会場にいる参加者の気持ちを一気に盛り上げてゆきました。



写真3 メインステージで行われた開会式

写真4
松本八希君(IE2)の製作した映像に重ねて、田中美里さん(CA4)がメッセージを読み上げた



■講演会

開会式の後には、ライティングプランナーズアソシエーツ代表取締役の面出薫先生から「光の環境デザイン」、そして、翌日の朝一番には、足利工業大学副学長の牛山泉先生から「環境問題と自然エネルギー利用」、神戸大学の重村力先生から「環境再生と建築デザイン」といった「環境」を軸としたタイトルで、各分野のトップレベルの内容の示唆に富んだ講演を頂きました（写真5）。



写真5 特別講演風景(左:面出先生、中:重村先生、右:牛山先生)

■ウェルカムイベント

面出先生の講演に引き続き、本校の学生が全国から集まった競技参加者を歓迎の気持ちを込めて行ったウェルカムパーティーでは、河村洋君と竹内結樹君（CA5）が進行役を務め、吹奏楽部がBGMを演奏する中、映画ロボコンの古厩監督からも応援メッセージを頂き、全国から集まった選手達も舞台上で意気込みを披露する等、大いに盛り上がりました。また、大会実施に多大なご支援を頂いた後援、協力団体の代表の方々、そして、審査員の方々からは、交歓会で大会の成功を祈念するメッセージを頂きました。



写真6 ウェルカムイベントの様子
左上:進行役の竹内君(左)と河村君(右)
右上:吹奏楽部の演奏
左下:ウェルカムパーティー全景
右下:氣勢を上げる徳山高専の選手団

■競 技

環境、空間、ものづくりの（構造を除く）3部門については、夏休みに予選が行われました。表-2に予選エントリー数を示します。合計305点の作品が寄せられ、いずれの部門に於いても高いレベルの作品が多く見受けられ、審査員を悩ませる審査会が行われました。

表-2 予選エントリー数

環境デザイン	空間デザイン	ものづくり	合 計
62	153	90	305

*構造部門は、予選無し

■本選参加状況

表-3に本選の競技参加状況を示します。北は北海道から南は鹿児島まで、全国から国公立の33高専が周南市総合スポーツセンターに集いました（表-4参照）。

表-3 本選参加高専数

構造ステンレス	構造パスタ	環境デザイン	空間デザイン	ものづくり
26	29	20	20	15

表-4 国公立別参加数

国立	公立	私立	計
29	2	2	33

■本校の参加状況

表-5、表-6は、本校学生の各部門へのエントリーの様子です。土木建築工学科、機械電気工学科や専攻科の合計130名の学生が参加しました。

表-5 各部門別エントリー数（チーム数/参加学生数）

構造ステンレス	構造パスタ	環境デザイン	空間デザイン	ものづくり	合計
1/5	1/1	15/55	7/22	12/47	36/130

表-6 学年別エントリー状況（ ）は人数

構造ステンレス	構造パスタ	環境デザイン	空間デザイン	ものづくり
CA4(5)	CA4(1)	CA3(44) ME3(1) CA4(2) CA5(2) EC1(3) MC1(1) CE1(2)	CA5(19) CA4(3)	CA2(47)

* 環境デザインのチームの内訳は、

3年生が11チーム(45名)：土木建築工学科44名、機械電気工学科1名(土木建築工学科のみのチーム：10チーム(各4名)、土木建築工学科(4名)+機械電気工学科(1名)：1チーム)

4年生が1チーム(2名)：土木建築工学科2名

5年生が1チーム(2名)：土木建築工学科2名

専攻科1年生が2チーム(6名)：環境建設工学専攻2名：1チーム、環境建設工学専攻(1名)+情報電子工学専攻(2名)+機械制御工学専攻(1名)

* 空間デザインのチームの内訳は、

5年生チームが5チーム(19名)

4年生チームが2チーム(3名)

表-7、表-8は本選に参加した学生の状況ですが、残念ながら空間デザイン部門では、本選に進むチームが出ませんでした。是非、次回リベンジを果たしていただきたいものです。

表-7 各部門別本選参加数（チーム数/参加学生数）

構造ステンレス	構造パスタ	環境デザイン	空間デザイン	ものづくり
1/5	1/5	4/16	0	1/4

表-8 学年別エントリー状況（ ）は人数

構造ステンレス	構造パスタ	環境デザイン	空間デザイン	ものづくり
CA4(5)	CA4(1)	CA3(16)	0	CA2(4)

■本選競技の状況



構造デザイン部門では、ステンレスブリッジとパスタブリッジの競技が行われ、それぞれ用・強・美の観点から審査が行われました。スタッフは、部門長の原先生と入念な打ち合わせ（写真7）の後、開会式の前に持ち込まれた作品の計量や（写真8）、翌日のメインアリーナでは、大勢の観客が見守る中で、テキパキと競技を運営しました（写真9）。



写真7 原先生と入念な打ち合わせを行うスタッフ



写真8 構造部門の計量の様子



写真9 構造競技の様子



環境デザイン部門では、LEDを使った「みちのあかり」がテーマでした。午前中のプレゼンテーションに引き続き午後からはポスターセッション（写真10）が行われ、選手達は、審査委員の厳しい質問に一所懸命に答えていました。この部門では、本校の土木建築工学科3年生（木村未希さん、坂本竜弥君、佐藤雅紀君、西山翔太郎君）の作品「Pole Signal」（写真11）が、みごとに優秀賞を獲得しました。



写真10 環境デザインのポスターセッション会場



写真11 優秀賞を獲得した徳山高専の作品「Pole Signal」



空間デザイン部門では、「新まちなか居住施設とぎれた「つながり」をとりもどす」といったテーマで、全国の高専生に徳山駅周辺に人の集まる空間をデザインしてもらいました。周南市の地域性を研究し、考え抜かれたコンセプトと精巧に作られた模型に、審査員はもとより周南市長も感心しておられました（写真12、写真13）。



写真12 空間デザイン発表風景



写真13 空間デザインポスターセッション風景（審査員は面出先生）



ものづくり部門では、徳山動物園を舞台に、間伐材を使った「人」と動物の「つながり」が見える動物園ファニチャーを考案し、2日間で製作するといった競技でした。屋外に作られた製作会場では、初日は制限時間いっぱいの夜の10時まで鋸や金槌の音が響いていました（写真14）。

本部門でも、土木建築工学科2年生（吉本海人君、杉山泰基君、友永尚君、松根幸太君、小林志海君、藤川大輝君、作品名「アニ＝スタ（アニマル＝スタンド）」）が、審査員特別賞（技術賞）を獲得する活躍をしてくれました（写真15）。



写真14 ものづくりコンペティションの風景



写真15 審査員特別賞（技術賞）を獲得した土木建築工学科2年生チーム

■フグ鍋



大会を大いに盛り上げてくれたイベントに、ご当地名産の「フグ汁」サービスがありました。一般科目の小川先生が鍋奉行を務め、3つの大鍋で大胆に炊き出した1000食のフグ汁の美味しさは来場者から絶賛され、汁の温かさと共に、徳山高専のおもてなしの心が参加者に伝わりました（写真16、写真17）。



写真16 盛り上がったふぐ鍋イベントの様子



写真17 手際よく準備されたふぐ汁

■二胡演奏&回天太鼓

競技の中断した昼休みには、王丹さんの演奏する二胡の美しい調べがメイン会場に流れました（写真18）。そして、閉会式の前に行われた回天太鼓の勇壮な演奏には、徳山高専の学生（CA5野村梨絵さん、西光ちひろさん）も約3ヶ月間の練習を積んで参加してくれました（写真19）。



写真18
王丹さんの二胡



写真19 回天太鼓の演奏に加わった
野村さんと西光さんの勇姿



写真22
徳山駅2階で
優秀作品の展示



写真23
周南市ツリー祭りで
LEDイルミネーション
教室開催

■閉会式

2日間の熱い競技を無事終えることができました。文部科学省高等教育局専門教育課企画官 坂口昭一郎様からねぎらいのお言葉があり、各部門の表彰の後には、次回開催校の高松高専の塩谷幾雄校長から、「讃岐うどんを用意して待っています。」といったご挨拶がありました。



写真20 閉会式



写真21 閉会式で本校のチーム
(CA3木村さん他)が表彰を受ける

■ポストイベント

大会を終えた11月18日には、動物園でものづくり部門の優秀作品が、そして、徳山駅ビルには、環境、空間部門の入選作品を含めた優秀作品が展示されました(写真22)。また、今回の大会では、LEDが大活躍をし、機械電気工学科の伊藤研究室の学生を中心に閉会式を演出してくれたLEDモニュメントは、地域のクリスマスイルミネーションとして、周南市ツリーまつりや、ザ・モール周南で活躍することになりました(写真23)。さらに、学校では、本校の3年生が本選で使用したLEDを使って校門前の飾り付けをしてくれました。

■おわりに

本校にとって、“30年に一度”と言われた一大イベントでしたが、学生・教職員が一丸となって、会場設営、開閉会式の演出、受付、ご来賓の接待、競技やイベントの進行と、滞り無く大会を終えることが出来ました。本大会に参加した他の高専やご来賓の方々からも多くの讃辞が寄せられ、特に閉会式の演出や各イベントの進行、接客等、学生が前面に出て大会を進めて行く姿に、徳山高専のレベルの高さを感じたといった高い評価を受けました。

本当に多くの方々のご協力により、大会を無事終了することが出来ました。改めてこの場を借りて、大会に関わった全ての皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございます。これからは競技参加に集中して、ぜひ、徳山高専に文部科学大臣賞や国土交通大臣賞を持って帰っていただくことを祈念いたします。

今後の開催予定

2008年：香川県高松市「高松工業高等専門学校」

2009年：愛知県豊田市「豊田工業高等専門学校」



構造デザイン部門 構造コンペティション

部門長 土木建築工学科 教授 原 隆

構造コンペティションではステンレスブリッジとパスタブリッジの耐力試験が行われ、耐荷性能、創造性、デザイン性をもとに審査を行った。ステンレスは周南地域の主要生産材であるステンレスの薄板を利用した「けた」の耐力試験を行った。また、パスタブリッジは、市販のスパゲッティを組み合わせて作製した、「けた」の耐力試験を行った。ステンレスブリッジ、パスタブリッジにはそれぞれ、全国の高専から26チームおよび29チームが参加し競技を行った。徳山高専からは、ステンレスブリッジに、岡内君、木村君、北園君、阿部君、高松君の作製した「ぶつつけ本番」が、パスタブリッジには岡内君の作製した「ピラミッド型トラス橋」が参加した。審査委員長は長岡技術科学大学長井正嗣教授、審査員は加藤史郎豊橋技術科学大学教授、若築建設株式会社取締役渡邊陽二郎氏、特別ゲストはパスタブリッジ発祥の地のオーストラリア・グリフィス大学Doh講師が務めた。



Doh講師、渡邊氏、加藤教授、長井教授

(1) ステンレスブリッジ競技

ステンレスブリッジは、0.1mmのステンレス板(SUS304)を溶接等は一切用いずに、M3のボルト・ナットのみで接合し、橋長96cm、高さ20cm、幅10cm以内の大きさのものを400g以内で作成するものとした。これをスパン90cmの単純形式、載荷点間隔30cmの4点曲げとした。載荷は容量2000Nの小型の万能試験機で30mm/secの変位制御で鉛直下向きに行った。破壊は、最大耐力点の荷重、または最大たわみ50mmとなった時点の荷重で定義した。



ステンレスブリッジの破壊状況

ステンレスブリッジでは圧縮域でいかに局部座屈(破壊)を防ぎ、また、いかに面外座屈を防ぐかがポイントであった。各校はデザインの優美さを考慮してこれらの破壊形式を防ぐ構造形式を提案した。25チームで競い、最大耐力829Nで松江高専が優勝した。

(2) パスタブリッジ競技

パスタブリッジは市販の直径1.8mmのパスタ(スパゲッティ)をホットボンドで組み立てて、質量100g以内、長さ64.8cm、高さ10.8cm、幅8cmの単純形式の桁を作成する。載荷試験では、この桁に900gのアルミ床板を載せ、900gの車両に錘を積載させて、斜面の自由落下を利用して床板上を通過させる。そして、錘を徐々に増加し、その最大耐力を競うものであった。パスタブリッジにおいてもたわみ制限を25mmとした。

パスタブリッジでは、脆性材料(壊れやすい材料)に衝撃が加わる厳しい条件のもとで28チームの参加校で競い、載荷質量4875gの米子高専が優勝した。



パスタブリッジを走行する車両

(3) 総合成績

ステンレスブリッジ、パスタブリッジの強度を中心に、デザイン性、創造性などを考慮して入賞者が決定された。

総合成績第1位の米子高専に文部科学大臣賞(最優秀賞)が授与された。また、総合成績2位、3位の松江高専と和歌山高専にそれぞれ優秀賞が授与された。さらに、構造的に優れた構造賞に松江高専、創造性、デザイン性に優れたデザイン賞には釧路高専、審査員特別賞のGold Coast Prizeには米子高専が選ばれた。

全国高専の精鋭がブリッジの強度を競い、また、友好を深め、次回高松高専での再会を誓った。

(詳細は

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/dezakon2007/>に記載)

(4) 番外編

本大会では残念ながら本校の作品は入賞にいたらなかった。捲土重来を期そう。しかし、競技運営、進行、準備、後片付けと、何をなせば最善かを常に考えながら行動した学生諸君の活躍は賞賛に値し、大会を支えた学生スタッフの成績は紛れもなく最優秀賞であった。

本事業には財団法人新技術振興渡辺記念会平成19年度科学技術国際交流援助の助成を受けた。



学生スタッフ



競技風景



展示風景

環境デザイン部門 環境コンペティション

部門長 機械電気工学科 教授 伊藤 尚

本大会の企画に携わるまで、デザコンについては全くの無知であった。ある日、突然、天野前校長の提案で、環境デザイン部門ではLEDをテーマに据えることが浮上した。その結果、3年程前から学生と一緒に取り組んできた「周南冬のツリーまつり」におけるLED電飾ツリー企画の話題から、その矛先が向けられることとなった。

何はともあれ、前年度の都城大会を見学して、初めてその雰囲気が伝わった。しかし、私にとって、建築系のコンペへの参加は人生初めての経験であり、半分は新鮮、けれども残りの半分は「何だ、これは」という異文化の体験であった。これまで、学生と一緒にモノづくりに励んではきたけれども、それはあくまで工業的な物づくりであって、芸術性や感性、哲学などとはほとんど無縁の世界であり、一種のカルチャーショック状態であった。

LEDはこれまでの電球に比べ、はるかに少ないエネルギーと簡単な制御によってあかりをともし新しい発光技術であり、今後、様々な分野での活用が期待されている。その省エネと鮮やかな発色特性を活かした街づくりの一例として、「みちのあかり」を環境部門の競技テーマに決定した。従来からのデザコンとは異なり、土木・建築系の学生のみならず、機械・電気・情報・電子系など、異分野の学生混成のコラボレーション参加も期待した。しかしながら、純粹に技術的な課題解決をターゲットにしたのでは、電気・情報・電子系学生に有利なコンペになってしまい、建築系学生単独での参加を排除することになりかねない。そこで、フルカラーLEDの基礎的な点灯ノウハウについては、参加者全員が共有することを基本とし、そのための教材サンプル（制御回路およびソフトウェア）を配布することにした。

審査委員長は、日本太陽エネルギー学会長で足利工大副学長の牛山 泉先生にお願いした。日本の風力エネルギー利用分野の大御所であるが、学会以外でもTV番組などを通して、環境エネルギ

一問題の啓発に努めておられる著名人である。他の審査員は、照明デザイナーで、これまで世界的なプロジェクトに携わってこられたライティングプランナーズアソシエーツ代表取締役（武蔵野美術大学教授）の面出 薫先生、道路行政の視点から、国土交通省中国地方整備局局長の甲村謙友氏、道路施工企業側の立場として、前田道路(株)常務取締役管理本部部長の高橋宏二氏であり、それぞれ、エコロジー（環境への貢献度）、芸術性、アイデア（未来への提案力）、実現性（製品化の可能性）などの観点から審査された。

本選においては、広島および東京におけるポスター予選（9月）で選ばれた20作品のプレゼンテーションが、模型展示も含めて行なわれた。その結果、最優秀作として、松江高専生の“世界遺産「石見銀山街道」を照らすLEDラトウ”が国土交通大臣賞を受賞した。この作品は地元の地域性とその歴史を深く理解した上に、かつての蝋灯を現代のLEDで甦らせたもので、実物大の坑道模型を持ち込んだ熱意や、和服を身につけての印象深いプレゼンテーションなどが高い評価を受けた。なお、彼らは電気、電子制御、情報系の学生であり、環境部門としての新しい歴史を開いた。本校からも、土木建築工学科3年生（木村未希、坂本竜弥、佐藤雅紀、西山翔太郎）の作品「Pole Signal」が優秀賞の一つに輝いた。

デザコンを通して、その参加はもとより、競技運営の裏方としても多くの関係者の努力とご協力があった。自らはコンペに参加せず、本校高専祭メイン企画として製作し、デザコン競技会場を盛り上げてくれた「フルカラーLED光る床」、および配布用のLEDサンプル製作に関わった学生会スタッフや研究室学生、全国高専からの参加者をもてなすためにフルカラーLED記念品の製作を熱心に手伝って頂いた本校学生および教職員の皆様に感謝申し上げます。



最優秀賞(国土交通大臣賞) 松江高専
世界遺産「石見銀山街道」を照らすLEDラトウ



女子学生活躍の総合受付を彩ったLEDロープライト



ポスター前でのプレゼンテーション風景
(面出(左)、牛山(中央)各審査員)



CA3学生によるフルカラーLED記念品準備作業風景

環境デザイン部門

上位入賞への「つながり」にしたい デザコン主催経験

部門長 土木建築工学科 准教授 古田 健一

空間デザイン部門では『新まちなか居住施設—とぎれた「つながり」をとりもどす—』として、徳山駅周辺の空き地や空き店舗などで連続性の途切れた中心市街地に、新たな「まちなか居住」のための施設をデザインすることをテーマにしました。17高専から153作品に及ぶ様々なアイデアが寄せられ、これらの作品を審査していただいたのは、建築家で神戸大学大学院建築学専攻教授の重村力審査員長、山口県土木建築部建築指導課企画監の清水正則審査員、日本政策投資銀行地域企画部参事役の藻谷浩介審査員です。9月下旬の予選（写真1）では審査員の先生方には長時間に渡り全作品を詳細に審査していただき、その結果20作品（表1）が本戦に参加しました。本校からは7作品を出していましたが、全国から寄せられた作品の水準が非常に高く、残念ながら予選通過はできませんでした。



写真1 予選審査風景

本戦では1作品7分間のプレゼンテーション審査（写真2）と、ポスターセッション審査（写真3）が行われました。プレゼンテーションでは2つのスクリーンを使い、CCDカメラによる模型のクローズアップなどを駆使した発表が続き、作品の水準の高さに加えて発表のすばらしさが印象的でした。ポスターセッションでは、展示会場のポスターと模型の前に立つ出場者を審査員が巡回し、質疑応答形式で行われました。審査員の先生方は個々の作品に熱心に質問され、作品をさらに良くするためのアドバイスをされるなどの教育的配慮もしていただき、審査時間をもっと取ればさらに良かったと思われます。

本戦の運営には、多数の学生が受付・司会・進行に協力してくれました。審査員をはじめとして各方面から学生諸君の手際良さに対して賞賛の言葉をいただきました。空間デザイン部門の責任者としても、スタッフの学生の皆さんには非常に感謝しています。今年度の経験が来年度以降のデザコンでの徳山高専上位入賞の「つながり」になることを期待しています。



写真2 プレゼンテーション審査風景



写真3 ポスターセッション審査風景

表1 空間デザイン部門予選通過作品と受賞結果

登録番号	作品名	高専名	受賞名
1	Area	呉	入選
9	CONTACT・CONNECT・COMMUNITY	八代	入選
15	MUTANT CITY AREA	岐阜	入選
16	字ひの森	岐阜	会場審査賞
17	BUDOUNOKI	石川	入選
32	癒しのスタジアム—「ケア都市構想」の実践—	石川	入選
34	都市に咲く緑園	小山	入選
35	住居のFRAGMENT	明石	優秀賞
38	い木の間	明石	入選
68	「下に集い、上に住まう」	明石	入選
84	THE PARK	小山	審査員特別賞
113	もうひとつのまち	米子	最優秀賞(山口県知事賞)
115	ribbon ground	米子	入選
119	南北統合	米子	入選
136	繋ぐいえ	呉	入選
144	人人～人と人とのつながりは∞(無限)である～	豊田	入選
145	Pocket	豊田	入選
146	学生と住民の生活	豊田	入選
147	Syuman Market	豊田	入選
153	まちリビング～アクションスタディによるつながりの再生～	米子	優秀賞(山崎建設賞)

ものづくり部門 デザコン2007in周南を終えて

部門長 土木建築工学科 教授 工藤 洋三

ものづくり部門のテーマは、間伐材を使って、「周南市徳山動物園内に、『ひと』と動物の『つながり』が見える動物園ファニチャーを提案・製作する」ことでした。周南市では、毎年11月18日の「土木の日」に、徳山動物園の動物の遊び場をつくる「土木の日コンテスト」が行われ定着しています。今回のテーマは、動物の居住空間ではなく、人が活動・休息するスペースに製作するという点、そして「デザコン」の名にふさわしくデザイン性を重視するという点に大きな特徴がありました。

審査員は、今回のテーマに最適な方々にお願いしました。まず、木構造の専門家として、錦帯橋の架け替え工事の棟梁を務められた海老崎条次氏、動物園の立場から構造物の安全性や使い心地を判断していただく徳山動物園の園長の山本貴隆氏、そして審査委員長には、建築・都市デザインの専門家山口大学工学部教授の内田文雄先生にお願いしました。

9月24日には、徳山高専で予選の審査が行われました。エントリーした90チームのポスターを3名の審査委員に審査していただき、ここで15チームが本選に進むことが決まりました。木材を使用して構造物をつくる場合の最大の問題は、各部材がぶつかる接合部をどのように設計し構造物としての完成度やデザイン性を高めるかということです。予選を通過した各チームの作品は、この接合部の設計に工夫をこらしただけでなく、デザイン性も十分に考慮したものでした。



予選審査風景



競技会場風景



作品の前で審査員にアピール

ものづくり部門の競技は、他部門に先立って、デザコン初日の16日10時から開始されました。およそ12時間の制限時間内に作品を完成させなければなりません。会場はスポーツセンター裏の特設の「テント村」で、インパクトドライバーやハンマーといった「小物」だけでなく、ボール盤やチップソー、自作の治具など、多くの作業器具が持ち込まれました。

できあがった作品はスポーツセンター横のスペースに1列に並べ、各チームが限られたプレゼンテーションの時間を使って審査員にアピールしました。最終審査は難航しましたが、結局米子高専の作品「play*search」が最優秀賞を獲得しました。徳山高専の土木建築工学科2年「チーム・トモナガ」の作品「アニマル・スタンド」が見事技術賞に輝きました。

デザコンを終えて

記憶の片隅にしっかりと残っている思い出がある。

僕は、チームトモナガのオリジナルメンバーではないが、自分で参加希望した。しかし、僕たちは部活が違ったためなかなか一緒に試作品を作ることが出来なかった。だから余計に試作品1号が出来た時嬉しかった。そして時間は流れ動物園での闘いで敗退するが、仲良くなったおじさんにコーチになってもらった。光陰矢のごとしとは良く言ったもので、デザコン当日になった。いろいろな高専の生徒がいた。みんなでカウントダウンしてスタートした。夢中でやっていて余りちゃんとした思い出はないが、賞をとった時は嬉しかった。とっても記憶の片隅にある思い出。
「僕たちのデザコン。」

CA2 小林 志海



デザコンのメンバーが決めたのが今から9ヶ月前、予選を突破し決勝へ出ることができると知ったのが4ヶ月前、そしてデザコン当日が2ヶ月前。こう数字にしてみると案外長かったなと思知らされます。

その7ヶ月間、班長という役にいながら、実際はほとんど人任せ。最後の最後までやはり誰かに甘えていました。

そんな中、技術賞を頂くことできたのは、やはり班員の皆がすごかったのだろうと今でも思います。もちろん結果が全てではありませんが、素直に喜ぶことができます。

その技術賞を含め、たくさんの経験や知識を得たあの7ヶ月間は、自分にとって忘れられない7ヶ月間となりました。

CA2 吉本 海人



僕はこのデザコンという機会に経験や知識などの様々なものを得ることができました。

そしてこの6人のメンバーで参加出来た事がすごい嬉しい事でした。全員が必死で努力し、協力し合えたことが重要で、入賞できたというのはその結果だと思います。この入賞した「アニスタ」も班員全員がアイデアを出し合い、それらを組み合わせることで出来た作品なのでこのメンバーでしか作り出せないものでした。このような経験は他の学校ではできないもので、この徳山高専に入れたことをとても喜ばしく思います。

CA2 松根 幸太

全国高等学校専門プログラミングコンテスト

プログラミングコンテストに参加して

情報電子工学科4年 作本 みなみ

春休み、同好会員みんなが集まり、その年のプロコンに向けてのアイデアをミーティングで出します。今年のミーティング、誰かが、他の人のメモ書きしたアイデアを「・・・おはじき?」と読み間違えました。そう、「おはじき」というテーマに決まったのは、全くの偶然からだったのです。

システムの概要を決め、具体的に設計をして、作り始めて・・・大変どころではありませんでした。それに、どうして私がリーダーなの? どう細かい詰めをして、どう開発を進めればいいのか、暗中模索もいいところです。度重なる変更や準備不足ばかりがあらわになり、無理がたたってストレスでダウンしたり、ご指導くださっていた顧問の先生とも険悪な雰囲気になったりで、メンバー全員に迷惑をかけてしまうことが多々ありました。本当にごめんなさい。

それでも、夏休みも毎日学校に通ってプログラミング。それ自体は、実はとても楽しいものでした。嫌になるくらい失敗続きで頭を抱えた分、動いたときには、皆で大喜びしました。何度投げ出そうと思ったか分かりませんが、なんとか諦めずにやり通せたのは、顧問の先生が辛抱強く助けて下さったから、そして一緒に支え合っているかけがえのない仲間がいたからだと思います。仲間と一緒に作る意味って、単に技術面で協力するだけではなく、きっとこういうところにあるんだなと実感しました。

さて、プロコン当日。展示会場の照明が明るすぎて誤動作する・・・すぐに周りに暗幕を張り、夜は、状況に合わせて、ひたすらプログラムの微調整。翌日は、プレゼンテーショ



ンと、実際に動くところを見てもらうデモ審査。息をつく暇もない中で、思うようにできなかったと流したり、緊張で言葉が出なくなりそうな仲間を皆で支えたり、たくさんの出来事がありました。二日間あっという間でした。終わったとき、やりきったという達成感と一緒に、一抹の寂しさに襲われたことを覚えています。

振り返ってみて、優秀賞という評価を頂けたことももちろんですが、本当に嬉しかったのは、自分たちが作りたいと思ったものを、きちんと形に出来たことだと思います。頼りなくて手際の悪い私と一緒に頑張ってくれた後輩のみんなに、本当に感謝しています。いま、この場を借りて、心から言わせてください。「ありがとう。」

プロコンで学べたこと

情報電子工学科2年 三坂 奨

プロコン。それは座学では学べない色々な事を教えてくれます。私は課題部門担当でありながらプログラミング面にはあまり関わらず、ハードウェア担当でした。

「おはじきぱちん♪」の特徴のひとつとして、ハードウェアが大掛かりなことが挙げられます。これは重要な役なんだと頭では理解はしていましたが、折角ならプログラム面で協力したかったという気持ちは正直ありました。何度かやる気無くしそうになったこともありました。その度に真剣に画面を見つめる先輩方や同級生を見てやる気を奮い立たせました。ああこれがチームプレイなのか、と実感しました。

準優勝という結果は、努力あってのものだと先輩方を見て思います。努力をあまりしない自分を変えるべきかなと思いました。



僕のプロコン、その裏で

情報電子工学科3年 鈴尾 大地

初めてプロコンの主役

プロコンは僕たちプログラム班が全力で関わる行事だ。僕は今年初めて本格的に取り組んだ。出場チーム代表五人に入れなかった僕は最初やる気が少なかった。ただ担当部分を与えられるとそうも言えず、気づくとのめり込んでいた。

知らないことを知るスリルが、みんなとする開発が、楽しかった。毎日往復三時間かけて通った夏休みは、終わってみれば楽しく、早かった。

開発作業

作業はまさに手探りだった。教えてくれる人も、説明書もない。技術力の不足は作業量で補うしかない。時には作業が進まず自責の念に駆られ、時には先生から厳しい一言が下る。そんな中でモノ作りの厳しさ、仲間との意志疎通の大切さ、他にも社会で役立つ多くのことを学べた。

本番直前は終電帰宅すら間に合わなくなるほどの過酷な追い込だった。僕も卒研生と同じように寮を出て、日付が変わるまで作業をした。でも、なぜかそれが嫌ではなかった。

本番

使えるだけの体力を使い、費やせるだけの時間を費やした末の作品に、僕たちは自信があった。

本番で僕は他校や企業の方など多くの人にアピールし、担当する後日のデモ審査に備えた。デモ審査は三段階の審査の一つで、僕たちが最も自由に表現できるチャンスだ。

ところがその重圧に負けた僕は審査で大失敗。思わず涙が出た。勝手に、すべてが終わったと思っていた。

そして発表

閉会式、そして結果発表。結果発表は、下位賞の審査員特別賞から。正直ここでは呼ばれなかった。後から発表される上位賞でノ賞にもそう思っていた。長い間をあけて、その願いが現実となった。筆舌に尽くしがたいほど嬉しかった。長い苦勞が報われたこと、全国というレベルで認められたこと、両方に感激した。

僕をはじめ出来のいいチームでは決して無いが、でも最高のチームだった。このチームで一丸となつてぶつかったこと、このチームで賞を取れたこと、本当によかったと思っている。

まだまだ続く道

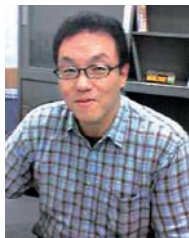
僕はまだ、来年いっぱい費やすことができる。次回は他校も多少意識してくるだろうし、下馬評もプレッシャーとなるばかりだ。すでに僕たちは来年の栄光を目指して動き出している。

今年逃したトップの座、次は本気で狙っていく。



第23回中国地区高等専門学校英語弁論大会

第1回目の全国大会のチケットゲットだぜ！



一般科目 (英語)
国重 徹

11月16・17日に津山高専で開催された第23回中国地区高専英語弁論大会の暗唱部門に情報電子工学科5年の福田弓恵さん、土木建築工学科5年の嶋本彩乃さんが、スピーチ部門に情報電子工学科5年の岡田珠誉さん、土木建築工学科4年の吉永晴香さんが出場し、4人とも日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮し、最高のスピーチを披露してくれました。その結果、吉永さんがスピーチ部門で優勝、福田さんが暗唱部門で3位に入賞しました。吉永さんは、昨年度の暗唱部門での優勝に続く両部門優勝の快挙を成し遂げました。

4人とも原稿の選定や作成から、忙しい合間を縫っての集中した厳しい練習を強い精神力で乗り越えてくれました。今回、このような素晴らしいチームで大会に臨めたことを心より感謝しています。

スピーチ部門で優勝した吉永さんは、2008年1月26・27日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される「第1回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト」に参加します。

では、以下に英語弁論大会に出場した4人の感想などを紹介します。



左から岡田さん、嶋本さん、吉永さん、福田さん



情報電子工学科5年
福田 弓恵

初めてのスピーチコンテストで奇跡的に3位に入賞することができました。努力に対して、入賞というご褒美がついてきて、とても嬉しいです。練習を始めた頃は、「l」と「r」の発音が上手くできず、今まで話していた英語は何だったのだと愕然としました。原稿を覚えたと思っても間違えて覚えていたり、練習のときに思い出せなかったりと、本番まで不安は残りました。そして一番の強敵は人前で話すということだったと思います。あがってしまって、原稿も気を付けなければならないことも全て飛んでしまいました。こんな私が無事にスピーチをすることができたのも、根気強く指導してくださった国重先生、Tony先生のお陰です。ありがとうございました。私にとって英語の力をさらにステップアップさせる、よい機会になりました。



土木建築工学科5年
嶋本 彩乃

昔から英語がうまくなりたい、しゃべれるようになりたいと思っていました。そのためにいつも急に、単語をいっぱい覚えよう、実際に外国人と仲良くなってみよう、家でCD聞いたりそれについていって発音してみようとか、一回だけ日本語訳なしでDVDを見てみたり、そんなことを思いついたり気がむいたりしてはやってみるものの、いつも気がつけば急にぱったりやらなくなって、身に付いたような身に付かなかったようなそんな繰り返しでした。(たぶん何にも身に付かなかった)

そこで、今回はいつか少しは上手になればいい

など思っていた発音とイントネーションに注目して、スピコンにチャレンジしてみようと考えました。

その結果は、なんにも賞はとれなかったけど英語って奥が深いなあ面白いなあと感じることができるとても貴重な経験になりました。発音を意識して物語を読んだり話したりするのはとても面白いことだし、スピーチをしている人が上手だと聞いていてわからない単語があってもなんとなく伝わってくるし、それに発音がきれいだと言葉とその内容そのままがとてもきれいに伝わっていく感じがしました。

今回のスピコン参加はとてもいい経験になりました。国重先生、いつもやさしく丁寧に指導してくださってどうもありがとうございました！みんなと一緒に最後に食べたご飯もとてもおいしかったし笑いが絶えなくてとてもいい思い出になりました！ありがとうございました。



情報電子工学科5年
岡田 珠誉

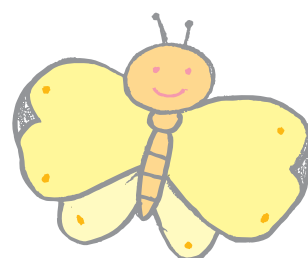
今回が初出場でしたが、思う存分に気持ちを込めたスピーチができたと思います。練習を始めてしばらくは、原稿を覚えられないという、つらい状況でした。

前日に緊張してほとんど一睡もできず、本番で眠気に襲われて、頭が真っ白になってしまいました。しかし、今までの練習と比べて一番うまくスピーチができました。自然と気持ちを込めたスピーチができたのです。審査員の方からは、臨場感あふれるスピーチだったというコメントをいただきました。いつか人を感動させるようなスピーチをしたいというのが、中学生のころからのひそかな私の夢でした。その夢を叶えることができた気がしています。指導してくださった国重先生、そして一緒に練習してきた3人の仲間へ感謝します。ありがとうございました。



土木建築工学科4年
吉永 晴香

私は活字嫌いで、作文はなるべく避けたいものでした。しかし、今回書かなければならなくなり、一ヶ月間私を苦しめました。また、一人前に「どうせ聞かせるなら、楽しい話を聞かせたい」という妙なサービス精神のため、さらに自らの首をしめているようでした。ようやく作文を書き終えたとき、「昨日の敵は今日の友」という言葉にもある通り、一ヶ月の苦悩は自信に変わりました。最後に、英語のスピーチは私に大事なことを教えてくれました。やろうと思えば、なんとでもなることです。スポーツにしる、芸術にしる、未知なる領域にしる、強い決意があれば結果は自然と導けることを知りました。この教えを生かしつつ、これから精進していきたいと思います。



やったぜ! 悲願の全国制覇達成!!

—第42回全国高等専門学校体育大会バレーボール競技を振り返って—



顧問 佐賀 孝徳

2007年8月19日、高知県南国市体育館、3年ぶり6回目の全国優勝の瞬間!コート・ベンチの選手、スタッフ、大応援団全員が、歓喜を極め、同じ思いを共有できたときであり、5年生達の着地点でもあった。OB、学生、教職員、そして、これまで子供達を育ててこられた保護者達から成る大応援団は100人にも及んだ。彼等の心からの叫びが、苦しい試合の局面にある選手達を何度勇気づけたことだろうか。中国大会での宿敵松江高専戦の際も、大応援団の中に、同じ光景をベンチから見る事が出来た。この優勝は、多くの方々の支援を受け、真摯に練習を重ねた成果であり、部を代表して感謝したい。特に試合当日怪我をした選手の治療を献身的にしてくれた徳山高専OBの海田君、高知高専の看護師の方に深謝する。彼等の支えがなければ、決して優勝はできなかったであろう。

高知高専のすばらしい大会運営による「2007高専大会」に関わった全ての人々に乾杯!そして、すばらしい思い出をありがとう。

顧問 国重 徹

バレー部の顧問になって13年目だが、今回全国優勝の瞬間を初めて経験した。部員達にこの巨体を胴上げされた瞬間、過去2年間の悔しさがすっと消えた。

徳山高専OBで高知高専教員(10月1日より愛媛大学に転出)の海田先生は、駐車場係をしながら応援してくれた。また、部員の食料の買出しや、怪我をした部員の病院への搬送を手伝ってくれた。海田先生の献身的な支えなくしては、優勝はできなかったであろう。

そんな温かい海田先生が、買出しの時に言ってくれた。「駐車場には、全国から続々とチームが来ますが、部員がそろって『こんにちは!よろしくお願ひします!』とさわやかに挨拶してくれるチームが一つだけあり、とても感心しました。実は、それが何と自分の母校の徳山高専だったんですよ!このときは、涙が出そうなほど感動しました。」

海田先生のこの言葉は、優勝の喜びに勝るとも劣らない嬉しさを与えてくれた。聞いている私の方こそ涙があふれ出そうになった。これこそクラブ活動の真髄ではなからうか。

顧問 近藤 祐史

私が南国市体育館へ着いたときには既に部員が到着しており、「やるぞー」という顔で指定された練習時間が来るのを待っているときだった。翌日の第1試合の宮城高専戦は、何かいつもと違ったが何とか競り勝った。2試合目は木更津高専戦で、こちらは、安心して見る事ができた。これで予選を突破し、明日は決勝トーナメント。準決勝での都城高専戦は、岩永君のサポータ捜索をしたので途中から見た。帰ってみるとやられている2セット目の途中だった。これはまさに手に汗握る白熱した試合だった。肝心なときにミスをしたり、決めたり、応援しているこちらもハラハラし通しだったが、ちゃんと勝ってくれた。決勝の神戸高専戦は落ち着いてすんなり勝ってくれた。優勝おめでとう！！

今回の高専大会に徳山高専のバレー部の一員として参加できて大変感謝している。この全国大会で、私が一番驚いたのは、朝早くバスで出発し駆けつけてくれた大応援団である。この存在があるから徳山高専のバレー部は強いのだろう。



マネージャー

土木建築工学科5年 長村 美佳

私の高専生活5年間は、マネージャー生活5年間で置き換えてもいいほど部活を中心に回っていた。特に、高校チームの間は、長期休みはもちろん、テスト週間中や高専祭期間中まで試合や練習があった。練習量が多いと評判の野球部よりも上をいっていたと思う。自分で使える自由な時間が取れず、嫌気がさすこともあった。しかし、それ以上に素晴らしいことをたくさん経験できた。中でも、5年間の集大成である最後の全国高専大会での優勝は、辛かったことや悔しい思いをしたこと、全てを晴らしてくれた。

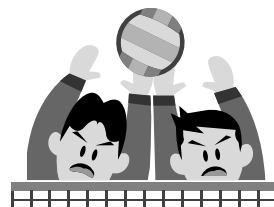
佐賀先生をはじめ諸先生方、いつも差し入れを持って応援に駆けつけてくださる保護者やOBの皆さん、最後に、部員達には心からありがとうと言いたい。徳山高専バレー部は永久に不滅です！

マネージャー

土木建築工学科5年 畑中 千尋

最後の全国高専大会が終わって4ヶ月が過ぎた。部活を引退してすぐは、放課後も休日も、今まで体育館にいた時間をこれからはどう過ごせばいいのか分からなかった。全国が終わったら…あれもしたい、これもしたいと頭の中はやりたい事いっぱいだったはずなのに、いざ自由な時間を与えられるとしばらく空虚な生活を送っていた。

私自身、小学校からずっとバレーをしていて、高専の部活見学でそのレベルの高さにビックリした事は今でもよく覚えている。マネージャーとして入部してからは数え切れない程の素敵な思い出が出来た。あと3ヶ月で卒業だが、部活に入らなかったらこんなに充実した学生生活は送れなかったと思う。部員のみんなや先生方、保護者の方々、その他にもたくさんの方に感謝している。みなさんのお陰で有終の美を飾ることが出来た。ありがとう！これからは徳山高専バレー部OGとして後輩たちの活躍を見守りたいと思う。



祝！全国制覇

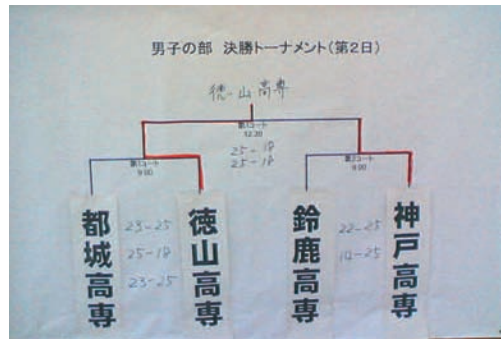
徳山高専 土木建築工学科 第19期卒
愛媛大学大学院 理工学研究科
(元高知高専 建設システム工学科) 海田 辰将

平成19年8月18～19日、高知県南国市立スポーツセンターで開催された第42回全国高等専門学校体育大会バレーボール競技において、徳山高専バレー部が見事に全国優勝という偉業を成し遂げてくれました。まずは選手の皆さん、佐賀先生をはじめスタッフの皆さん、優勝おめでとうございます！！3年ぶりの全国制覇と聞いていますが、選手もスタッフも決して楽な道のりではなかったと察しています。

私の現職は愛媛大学教員ですが、平成19年9月30日まで高知高専建設システム工学科に在職しており、本大会の運営スタッフとして参加させていただきました。私自身のバレーボールの経験は全くありませんが、一人の徳山高専OBとして、運営スタッフとして、高専教員として携わった立場から、本大会の一部始終を振り返ってみたいと思います。

全国的に連日猛暑だったことに加え、南国土佐特有の日差しが痛いほどに照りつける中、本大会が開催されました。試合会場となる南国市の気温も35℃を超える殺人的な暑さでした。高知高専は本大会の開催校のため、その運営にほとんどの教職員がスタッフとして参加することになりました。その中で、私の卒業研究の指導教官である佐賀先生が監督を務める徳山高専バレー部が本大会に出場される事を聞き、高知高専バレー部顧問の澤本先生の粹な計らいで、私はバレーボール競技の運営をサポートすることになりました。

大会前日の8月17日、私は朝から各高専の選手団を迎えるため、駐車場整理をしていました。修学旅行気分であつた高専、全員が緊張感溢れた面持ちの高専、飛行機に乗り遅れた選手に翻弄され、高知龍馬空港まで行き来する高専など会場入り一つとっても様々な高専の様子が窺えました。その中で、ある選手団だけが「こんにちは！」「よろしくお祈りします！」と**全員が**爽やかな表情で気持ちの良い挨拶をしてくれました。「どこの高専だろう」と思った次の瞬間、見覚えのある「熱球」の文字が彼らの背中に…！もちろん、彼らからみれば、私が10年前の先輩であることなど知る由もなく、試合とは何ら関係のない駐車場整理スタッフの一人に見えたことでしょう。この挨拶



決勝トーナメント表 (徳山高専優勝！)

の一件だけで、私はものすごく感激しました。と同時に佐賀先生をはじめ徳山高専スタッフの皆様と保護者の方の道德教育・指導が行き届いていることに感服致しました。本当に小さなことですが、このような基本的な教育が出来ている子供達というのは、意外と少なくなっている気がします。この日は夕方から組み合わせ抽選が行われたのですが、個人的には高知高専vs徳山高専という対戦カードが気になっていました。現役の教え子vs母校の後輩…見たいような見たくないような。幸い両校はブロックが異なりましたので、安心して私も観戦できました。

翌18日から、いよいよ大会が始まり、各高専とも熱戦を繰り広げていました。高知高専と徳山高専、両方とも決勝トーナメントに行つて欲しいと願いつつ、運営の仕事をしていました。試合の全ては見られなかったのですが、初戦の徳山高専vs宮城高専では、目の前で繰り上げられる一進一退の攻防戦に若いエネルギーを肌で感じました。徳山高専の試合で私が一番驚いたのは、応援団の人数でした。徳山一南国は高速でも約5時間はかかる距離にも関わらず、大変多くの保護者の方たちが応援に駆けつけられていました。しかも、選手とおそろいの「熱球」シャツを身に纏い(笑)。高知高専も地元開催だけあって保護者、OB、学生からなる応援団を結成していましたが、それに勝るとも劣らない徳山高専応援団に、試合にかけるとも多大な熱意を感じました。ゲームの流れが相手に傾きかけたとき、相手チームの応援団を圧倒する大声援に、選手達はなによりも励まされたことでしょう。高知高専も初戦は快勝していましたが、徳山高専と当たらずに良かったと心底思いました。

また、この日は選手の昼食を買い出すべく顧問の国重先生、近藤先生を近くのスーパーまでご案内させていただいたのですが、この買出しでも「勝利」にける執念とかこだわりを実感しました。「消化が良く試合の負担にならないものを」「腹持ち良く少しでもエネルギーの出るものを」

という国重先生の言葉が印象的でした。数が数だけに、しかも速やかな調達が求められましたのでコンビニなどではまず無理で、そのあたりの地理案内で微力ながらお手伝いさせていただきました。その後、仕事で観戦はできませんでしたが、徳山高専が2回戦も快勝し、決勝トーナメント進出という結果を聞いて、私もガッツポーズです。残念ながら、高知高専は決勝には進めませんでしたが、教え子でもある選手達には心から拍手を送りました。彼らはみな、普段の高専生活では見せない性格や生き活きとした表情を見せてくれました。

この日の日程が終わったあと、徳山高専の選手の1人が怪我をしたということで、病院まで案内させていただいたのですが、彼と話す会話からも「明日の決勝トーナメントには絶対に出たい」という気迫が伝わってきました。治療中、お母さんとの会話でも、息子を高専最後の戦いを憂う母親の気持ちがひしひしと伝わり、心を打たれました。

19日は、決勝トーナメントです。この日ばかりは、私も会場運営の仕事をほとんど放り出し(ゴメンナサイ)、徳山高専の試合を最初から最後まで観戦させていただきました。ここで驚愕の事実が1つ。駐車場整理をしていると、見覚えのないバスが1台。中から「熱球」シャツ軍団がぞろぞろ…。

徳山高専応援団の増援部隊っ!?

聞けば早朝(深夜?)に徳山を出発したとのこと。がんばっているのは選手だけじゃなく、その保護者の方も学生も、教職員も皆思いは1つなんだなぁ、と驚き、そして感心致しました。準決勝の都城高専戦では、絶えず声援とエールを贈り続ける、高知高専をも凌ぐ大応援団の歓声が会場内に響き渡り、1点を争う決勝戦かと思えるような熱き攻防戦で、選手・監督を強烈にバックアップしていました。この大応援団により、相手に傾いた流れを一気に引き戻しているよう私には感じられました。この大応援団の活躍は、後に高知高専スタッフの間でも大いに話題となっていました。私も徳山高専サイドから拳を握り締めて応援していました。すると、高知高専の応援&スタッフ学生が数名、私のところにきて「海田先生の母校やし、うちらも応援しちゃうからね!」と一緒に徳山高専を応援してくれました。自分たちチームは敗退しているのに、他校のチームを精一杯応援しようという彼女らの土佐っ子気質の温かい心意気に我が教

え子ながら、素直に感激しました。

決勝戦の神戸高専戦では、強豪校と聞いていただけに、観戦する方にも緊張感が伝わってきました。しかし、試合中の徳山高専の選手達が、時折観客席に向かって笑顔を見せるなど、最後の勝敗を決する強豪校との決勝戦というよりも、バレーボールを心底楽しんでいるなぁ、という印象を強く受けました。昨日負傷した彼も、コート内をはつらつと駆け回っており、安心しました。会場の雰囲気も、徳山高専大応援団のおかげで完全に徳山ペースになっており、そのまま2-0のストレートで決勝戦を制しました。全国制覇という快挙に歓喜の声を上げ、喜び踊る後輩選手たちの姿は、とても美しかったです。胴上げで宙を舞う佐賀先生、国重先生、スタッフの皆さん。どのシーンをとっても最高でした。このとき、私は嬉しくなってしまう、優勝スペースに徳山高専の文字が入られた決勝トーナメント表を携帯カメラで撮りました(冒頭の写真です)。

そういえば、私が高専5年生の時、卒業研究で先生と相談したいことがあっても、佐賀先生は「試合が近いから」と体育館に行っていて不在、ということがあり、私たち卒研生は、今だから言いますが、割と困っていました(笑)。しかし、そこまで佐賀先生がバレーボールに熱意と情熱を注がれる理由が、このとき理解できました。私も高知高専教員となってから弓道部の顧問をしており、H17年度の全国高専選抜弓道大会で女子が団体・個人・MVPと全て優勝したことがあるのですが、そのときの感動と記憶、顧問として指導する喜びが蘇ってくるようでした。

あっという間の2日間でした。選手の後輩諸君はもちろん、熱心にご指導される先生方をはじめとする教職員の皆様、そして日ごろは選手の活動を陰で支え続け、試合では大声援を贈り続ける保護者や徳山高専バレー部OBの皆様。心から敬意を表したいと思います。そして、ただでさえ暑い南国土佐の地で、教職員と学生との厚い信頼関係に基づいて練り広げられる徳山高専の熱いバレーボールを存分に楽しませていただきました。まさに「熱球」と徳山高専魂(スピリッツ)を体感し、「徳山高専OBでよかった」と思える2日間でした。これからも、徳山高専バレー部は熱く燃え続けることでしょう。最後に、徳山高専バレー部を始め、本大会の関係皆様にお礼を申し上げます。感動をありがとうございました。

秋田県わか杉国体なぎなた出場

なぎなたで国体初出場

土木建築工学科2年 椎木 英理子



平成19年9月30日～10月2日に秋田わか杉国体が開催され、山口県少年女子の部の代表として演技の部と試合競技の部の両方に出場しました。

国体は全国大会の中でも私の一番憧れの大会です。去年は補欠で出場を逃し、今回が初出場でした。

現在、山口県になぎなた部があるのは下関の長府高校だけです。私以外の国体選手は長府高生だったので夏休みの終わり頃から、毎日電車で長府高に通い練習しました。その頃、思ったようになぎなたができず焦りを感じていました。しかし、今はとにかく練習するしかない、注意されたことをできるだけ多く直そうと頭の中で繰り返し、稽古を重ねました。

国体の試合競技一回戦は順当に勝ち、二回戦の相手は強豪の香川県。この試合が山場になるだろうと言われていました。私は大将を務めました。1対1の同点というシチュエーションで回ってきました。私が勝たなければ、ここで終わり。プレッシャーを感じながら、試合に臨みました。3分経ち、両者0-0で延長戦。「このままでは、判定で負ける。」と自分で分かっていました。「一本絶対にとる。」そう思い攻め続けていると、無意識に出たスネが「スネあり!」。とった瞬間、自分でも信じられませんでした。さらに目標としているベスト8がかかった三回戦の相手は千葉県でした。私に回ってきたときにはすでに0対2。チームの勝敗はすでに決していました。けれども、この試合に勝ち一矢報いたいという一心で粘りきり、延長戦で一本勝ちすることができました。

大きな大会に出て自分の実力以上の力を出せるかどうかは体調や運に左右されます。何千時間と練習しても試合で成果を発揮できないこともあります。試合で一番必要なのは結局自分の精神力だと痛感しました。なぜなら、なぎなたの試合時間は3分ありますが一瞬の隙で勝敗が決してしまうからです。これまで、集中が途切れた瞬間を狙われることがあり、悔しい思いをしてきました。今回、私の中で精神的にステップアップできたような気がします。来年はチームを精神的にも技術的にも引っ張っていけるような選手になれるよう頑張ります。



剣道部顧問 柏倉 知秀

椎木さんの国体出場は、平成19年3月に兵庫県で開催された全国高校選抜大会、8月に佐賀県で開催されたインターハイ出場に続く快挙です。剣道部所属のなぎなた選手は椎木さん一人ですが、地元のスポーツ少年団に出稽古に行くなど、毎日頑張っています。そんな普段からの努力が、国体出場という結果に結実したのだと思います。今後の活躍も大いに期待しています。

機械電気工学科

就職・進学状況

志事(しごと)のできる人材に!



5年担任 機械電気工学科
准教授 小田 和広

今年も5年生が社会へと巣立つ時期がやってきました。担任として、進路が確定したことへの安堵と彼らの将来の活躍を期待する気持ちなどで複雑な心境です。今年のクラスは、45名中1/3が進学、2/3が就職でした。就職する学生のうち、1/5は4年次のインターンシップ先を第1希望し、多くの企業が4月上旬に応募、4月下旬からGW明けに試験という日程でした。一部の企業や自由応募の場合は、3月中に試験がありました。今年の就職・進学状況を簡潔に表現するなら、「求人は好調・学生は真面目だった」といったところでしょうか。

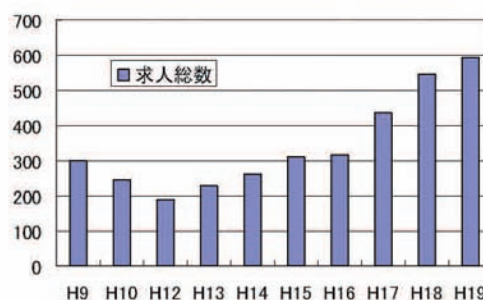
今年は約600社の企業から求人をしていただきました。過去10年間の求人数のグラフより分かるように、機械電気工学科に対する求人数は、平成9年以降、年々増加しており、8年前の約3倍、4年前と比較しても約2倍となっています。本科生と同様に専攻科生に対する評価も高く、専攻科卒に対する求人も増えています。数年の間求人途絶えていた大企業や地場の企業などからも求人があり、2~3月の時期にはほとんど毎日のように企業の方の訪問がありました。多い日には1日で7社に対応するという嬉しい悲鳴を上げました。人事の方によれば、団塊世代の退職の影響は深刻で、多くの企業で機械・電気系技術者は不足しているそうですので、本学科に対する期待は高く活躍の場は大いにあります。4年生以下の皆さんは頑張ってお力をつけてください。

求人が1人に対して30社以上あるからといって、希望どおりに企業が採用してくれる訳ではありません。基礎学力はもちろん、やる気と創造性のある学生が期待されています。ある企業の方から次のような話をお聞きました。「新入社員にはしごとには4つあると教えています。会社のために

ならず時間ばかりを浪費するのは死事。上司に言われることだけをするのは使事。やる気をもって取り組むのは仕事。改善や提案など創意工夫をもってあたるのは志事。新入社員の皆さん、いまの取り組みは4つの中のどの仕事になっていますか？」 学生の皆さんも、授業がうわの空(死事)、丸暗記や試験のためだけの勉強(使事)ではなく、専門技術に対する興味ややる気をもって(仕事)、自分らしさを発見・発揮する勉強(志事)を考えていってはどうか。

さて、冒頭に「今年の学生は真面目であった」と書きましたが、それは授業・生活態度だけでなく履歴書にも現れていました。履歴書は単に企業が面接に利用するためのものではなく、自分が学生時代をどのように生きてきたかを映し出す鏡のようなものです。自己アピール欄、志望動機欄に何が書けるか。進路支援室のサポートも多大でしたが、みなしっかりアピールする点がありました。高専生活を真面目に取り組んだ証左でしょう。4年生以下の皆さんも学業、資格、クラブ活動、趣味、創造演習・製作、コンテスト、ボランティアなど何でも構いませんので、何か一つでも自信を持って語れるものを高専時代に取り組んで欲しい。志事のできる人材を目指して!

機械電気工学科求人総数の推移



就職

旭化成ケミカル、宇部興産、NHKアイテック、キャノン、協和発酵ケミカル、協和発酵工業、ソニーEMCS湖西テック、JFEスチール西日本製鉄所、武田薬品工業、中国運輸局、ティーエスプレジジョン、TOTO、東レ、トクヤマ(2名)、トヨタ自動車、日東電工、日本ゼオン、日本モレックス、パナソニックITS、バンダイ、日立ハイテクノロジーズ、マツダ、三浦工業、三菱化学エンジニアリング、三菱重工業、三菱レイヨン、森精機製作所、安川電機

進学

徳山高専専攻科(5名)、豊橋技術科学大学(4名)、長岡技術科学大学、山口大学(2名)、立命館大学、熊本大学、大阪ハイテクノロジー専門学校 順不同

情報電子工学科

就職・進学状況

自信を持って、かつ準備は早めに



5年担任 情報電子工学科
講師 杉村 敦彦

<進路状況>

平成19年度の情報電子工学科5年生は41名（留學生1名含む）で、就職21名、進学19名となっています。就職は、ソフト関係が15名、生産関係が4名などです。地域で見ると、関西・中国地方が14名、関東方面が7名です。進学は、専攻科13名、一般大学6名となっています。

<就職>

求人社数は、534社と、過去5年間で最も多くなっています。実際に就職した数はソフト関係が多くなっていますが、メーカーの工場関係の生産管理などの求人も数多くあります。求人数が増えても、採用レベルが下がっているわけではなく、会社側はしっかり人物や能力をみて、採用を行います。そのため、SPIや一般常識については早くから準備する必要があります。SPIについては、会社で行う場合と、インターネットを利用して学内や自宅から行える場合もあります。

今年の特別なケースとして、就職試験の際に会社へ出向かず、逆に会社の方が来校されて会社説明と面接を行われ、役員面接さえも本校で行い、ついに一度も会社へ行かずに採用が決まった例がありました。さらに別の会社ですが、10月の内定式を、会社で行わず、会社の方が各学校を回られて、本校で内定書を手渡してくれたケースもありました。

また、これまでは情報電子工学科という専門性から、関西や関東地方に就職する学生が多く、地元にはなかなか残りにくいという印象がありました。しかし、実際によく調べてみると、現在では、県内にもそれなりに求人はあり、広島や福岡までを考えると相当な数の会社があります。ただ、地域で会社を選ぶのではなく、あくまでも自分のやりたい仕事で会社を選ぶことが重要です。

次に、採用スケジュールですが、5年生の4月、5月での短期決戦と、一年間を通して募集する場合の二つがあります。また、5月を過ぎてもまだ採用枠が埋まっておらず、引き続き採用活動を行っている企業も多くみられます。一方、学生側の具体的な準備開始時期としては、4年生の12月頃

になります。それは、5年生になった4月に書類を送付し、連休前に会社説明、一次面接が行われ、5月連休明けに二次面接が行われることが多いためです。5年生になった4月早々に書類を送付するためには、3月中に履歴書やエントリーシートを準備し、成績証明書や卒業見込証明書などは、4月になったらすぐに申請しないと間に合わないこととなります。そのためには、4年生2月末の終業時には希望先を決定しておく必要があります。一校、または一学科の募集人数が限られている場合もあるので、学内調整を考えると、1月末には仮の希望先を決める必要があります。その希望先を決めるための家族との相談は、時間的にゆとりのある、年末年始の冬休みを利用して行うのがベストです。そのためには冬休みまでにある程度自分自身の希望や方向性を決め、かつ会社の情報を収集する必要があります。現在、ほとんどの会社が自社のウェブページを持ち、その中に求人に関する情報を掲載しています。また、前年度までに学科にきた求人票や会社の資料は学内で自由に閲覧できるシステムがあり、その中には会社のウェブページには掲載されていない細かい情報も含まれているので、是非一度は目を通しておくべきでしょう。

会社の方も1月頃からたくさん求人に来校され、多い日は一日4社から5社の対応を行い、のべ100件を越える数の来校がありました。また、こちらから出向いての企業訪問も行い、学生の希望に対して可能な限りの情報の収集を行っています。その中で、印象深い話があったので紹介します。現在、多くの企業では、高専卒と大学卒による昇級の差はあまりなく、社内で決められた基準をクリアすることによって昇級していく制度を取っています。ある会社の人事の方が大学卒と高専卒の伸び方を綿密に調査された結果、高専卒の方が大学卒よりも伸び率がよいということでした。その理由について、その人事の方は、次のように解析されていました。「高専卒の人は大学卒に負けたくないという気概があり、それがよい結果をもたらしているのは間違いない。しかし、それだけでは説明できない。どうやら、高専では1年生から専門を学び、5年間で専門の基礎がしっかりできているのが、その後の伸びにつながっていると考えられる。」その人事の方は、その解析結果をもって会社に高専卒をもっとたくさん採用するよう働きかけて、高専の採用人数を増やしてもらったようです。

このように皆さんは、クラスの中では一応成績による順位はつきませんが、高専5年間をしっかりと学んでいれば、十分世間で通用する実力はついていきます。自分に自信を持って就職活動に臨んで欲しいと思います。

ただ、資格（情報処理技術者試験等）について

は、就職活動を行うときに、持っていて当たり前です。最後のチャンスは4年生の秋ですので、しっかり勉強して取得を目指して下さい。

<進学>

今年の特徴は、本校の専攻科へ進んだ学生が13名と多かったことです。一般の公立大学へも6名が進学し、クラスの半数近くが進学を選択したことになります。一般の大学へ進学する場合は、高専で取った科目の単位をどの程度大学が自分の学校の単位として認めてくれるかにも注意する必要があります。また、学力で受験する場合は、各大学で試験日が異なるため、複数の大学を受けることも可能です。

ただ、普通高校から大学を受験する場合のように、どの程度の成績ならどの大学に受かるという目安はありません。また、全国の高専から大学へ編入学しようという学生の数は決して少なくはなく、多数の優秀な学生が編入学を目指しているという現状もあります。さらに、大学によっては、合格基準がこれまでの傾向と大きく異なる場合もあります。

実際に進学した場合には、高専で学んだことと似たものを、もう一度学ぶこともあり、そのような場合は、比較的理解しやすいでしょうし、実験系では、高専で身につけた実力を発揮しやすいでしょう。しかし、分野によっては苦勞する科目もあると思います。

進学する場合も就職と同様、自分が将来何をしたいのか、そしてそのために進学先で何を学びたいのかをしっかりと考えておく必要があります。また、進学してもその先では就職という場面が待っています。企業というものを肌で感じることでできるインターンシップについては、就職希望の学生だけでなく進学希望の学生にも、高専のときに経験しておくことを勧めます。

低学年の皆さんにも、就職、あるいは進学という進路の選択は、いずれやってきます。高専で学ぶことをしっかりとこなしていけば、自信を持って就職や進学に臨めると思います。そのためにも日々の努力は怠らないようにしましょう。

就職

アトラス情報サービス、出光興産、インフォコム西日本、SMSデータテック、NTTネオメイト、オリンパスソフトウェアテクノロジー、神脇産業、KDDIテクニカルエンジニアリングサービス、京セラ、コベルコシステムズ、ソーバル(2名)、ソニーデジタル、TGL、東京コンピュータサービス、東ソー、西日本情報システム、日本情報通信システム、日本ゼオン、ハイテックシステム、富士通山口情報

進学

徳山高専専攻科(13名)、岡山大学、九州工業大学、熊本大学、広島市立大学、広島大学、山口大学
順不同

土木建築工学科

就職・進学状況

未来と自分を変えられる



5年担任 土木建築工学科
教授 佐賀 孝徳

平成19年度土木建築工学科の学生42名の進路状況は、図-1に示す通りです。近年、土木建築では5割近くが進学しますが、今年も21名が進学、その中で専攻科が12名を占めました。就職では、民間17名、公務員3名が決まっています。未定1名(1月10日現在)

今年度の就職状況の特徴は、団塊世代の大量退職に伴う会社の人材確保の流れを受けて、求人の増加と就職試験の更なる早期化があげられます。学科を問わない形式の求人票の増加、建設業界においても同様に増加傾向ですが、近年の公共事業の縮減とコスト低下問題に伴う土木分野の求人数は横ばい傾向、民間需要である建築分野、特に建築施工管理技術者への増加が特徴となっています。

JRや電力・ガス会社など公益性のある企業への就職も多いことも特徴です。一方、公務員の求人数は、市町村合併の影響もあり、少なくなっており、その他の省庁においても職種によって減少していますが、一般事務職の採用試験の倍率よりはかなり低い状況ではあります。また、技術系の公務員は、土木建築の技術者が大半を占めることから、公務員希望は土木建築が有利ですが、近年公務員希望の学生の受験状況では苦戦を強いられていますので、下級生は低学年から公務員試験の問題集を解くなど早くから対策を行うことを勧めます。また、会社の学校訪問も前年から行われ、就職試験も2月中旬から始まり、3月にはかなりの数の就職試験等が行われます。そのため、進路の決定、試験対策、面接練習など対策も早くから十分行う必要があります。

進学では、熊本大学などのように大学説明会をすべての高専で行うなど、大学側も編入生獲得に力を入れていることがうかがわれます。最終的には、熊本大学には2名、広島大学、山口大学、宇都宮大学、北九州市立大学各1名が合格しました。専攻科には、推薦8名、学力4名の計12名が合格しました。また、他分野への進学となる関西外国語大学、松山大学法学部、日大芸術学部に進む学生もいます。進学においても、早い時期に志望大学を決めて、着実に学力を向上させることが重要です。

土木建築工学科では長年、民間、公務員、進学のコースごとの指導を4年次から行っていますが、進路支援室の発足以来、低学年から進路に関わる系統的なサポートがなされるようになりました。そのことにより、4年生から、履歴書の書き方、面接方法などたくさんの指導と直前の面接練習、履歴書の添削等、懇切丁寧な援助をしてもらいました。そのほか、卒研の先生の指導、成績証明書、健康診断書などの学生課職員による書類作成など、実に数多くの教職員の方々にお世話になりました。紙面を借りて、クラスの学生に代わって、あらためてお礼を申し上げます。

これから進路を考える学生達へのアドバイスとして、①進路についてできるだけ早く真摯に考えること。その際、多くの教職員やOBに相談し、本を読むことも重要ですが、学校のHPにある進路支援室の活用を特に進めます。②勉学ももちろんですが、たくさんの仲間で行うクラブ活動やロボコン等の参加、読書など感動体験を数多く高専時代にする。そして「〇〇を真摯に取り組んできた」と自信を持って言えるような充実した生活をする。人間性を磨き、心身共に健全な成長を促すことだと思います。

過去はもう変えられません。未来と自分はいくらかでも変えることができます。今から頑張ってください。

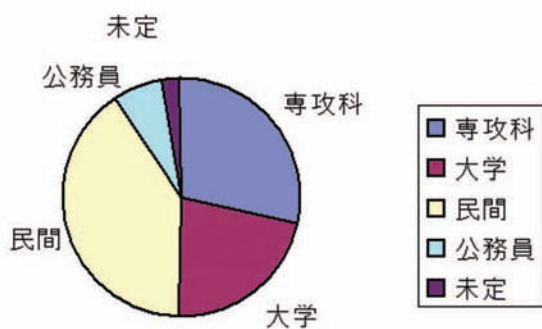


図-1

就職

池下設計、一条工務店、大阪ガス、大林組、鹿島クレスウエスト、JR西日本(2名)、JOWコーポレーション、周南市役所、大和ハウス、東京ガス、トクヤマ、長崎建設、西松建設、日立プラントテクノ、前田道路、山口県(2名)、山崎建設

進学

徳山高専専攻科(12名)、宇都宮大学、関西外国語大学、北九州市立大学、熊本大学(2名)、日本大学、広島大学、松山大学、山口大学 順不同

機械制御工学専攻

就職・進学状況

さらなる専門教育に向けて



機械制御工学専攻科幹事 機械電気工学科
助教 北村 健太郎

平成19年度機械制御工学専攻の卒業生は3名で、卒業後の進路は全員が大学院への進学でした。高専の専攻科では本科での教育に引き続き、社会での即戦力となる質の高い実践的な教育を行っており、特別研究もより高いレベルでの指導をしています。このような教育カリキュラムによって、専攻科卒業生は企業等での即戦力として活躍する一方で、近年は大学院へ進学しより専門的な研究を希望する学生が増えてきました。

大学院への進学に関しては、いくつかの選択肢があります。長岡、豊橋の技術科学大学(技科大)では高専での教育カリキュラムを踏まえた大学院教育を行うために、高専卒業生に手厚い専門教育を受けることができます。本年度は機械制御工学専攻の卒業生のうち1名が豊橋技科大の大学院へ進学しました。推薦枠での入試で英語と面接のみの選考でした。

もう一つは、国公立の一般大学の大学院へ進学する選択肢です。これらの大学では、基本的には高専の教育カリキュラムを踏まえた教育は行っておりませんが、非常に多彩な専攻の中から自分の希望する研究室を探し出すことができます。また、近年では高専専攻科の卒業生を対象にした、推薦や特別枠を設けている大学院も多くあります。本年度は2名がそれぞれ山口大学と九州工業大学の大学院へ進学しましたが、両名ともこのような推薦枠での進学でした。山口大学大学院の入学試験は面接のみで、九州工業大学大学院は書類審査のみの選考でした。

このように将来大学院に進学してより深く専門分野を極めたいと思う人は、専攻科から大学院に進学するほうが、3年次の編入試験を受けるよりも入学し易い場合があります。いずれにしても、将来どのような分野で活躍したいか、はっきりとした目標を持って専門分野への進路を考えることが大切だと思います。

進学

九州工業大学大学院、豊橋技術科学大学大学院、山口大学大学院
順不同

情報電子工学専攻

就職・進学状況

より深く学び更なる可能性を!



情報電子工学専攻科幹事 情報電子工学科
助教 柳澤 秀明

平成19年度の情報電子工学専攻2年生は4名で、進学希望1名、就職希望3名でした。進学先としては、筑波大学大学院、就職先としては、株式会社宇部情報システム、コスモ・コンピュータ・ビジネス株式会社があります。

就職先を選んだ理由としては、「SEとしてどこまでやれるか試したかったから」と、本科、専攻科で学んだ知識を活かせる職場を探し、また、「明るく社員を大切に作る社風」など、面接官や企業訪問をした時の印象などを最終的な決め手としたようです。

一方、進学を選んだ理由として、「組み込みシステムに興味をもち、より深く学びたいから」ということでした。

進学先の大学院を決めるときは、学生自身で、興味のある研究を行っている研究室を探し、研究室を訪問し、研究内容や研究設備などについて話を伺うなど、自分が興味を持った分野について学ぶことのできる研究室を選んでいました。最終的には、研究室の雰囲気なども含めて受験先を決めたようです。

ここ数年、大学院への進学率が上がっています。大学院へ進学する場合、専攻科に進んでから自分の興味のある研究をしている研究室を探し、進学することができます。また、専攻科は、大学編入と比べて、とても経済的です。大学院への進学を考えている人は、専攻科から大学院への道も考えてみてください。

就職

宇部情報システム、コスモコンピュータビジネス

進学

筑波大学大学院
順不同

環境建設工学専攻

就職・進学状況

環境建設専攻科進路の概況



環境建設専攻科幹事 土木建築工学科
准教授 熊野 稔

2007年度2年生の専攻科生9名の進路は、民間企業が前田道路（女子・土木）、西松建設（建築）、山崎建設（土木）。公務員が国家二種土木職採用試験に合格して経済産業省（女子・建築）、国立大学法人香川大学（女子・建築）。進学が東京工業大学大学院（建築）、筑波大学大学院（建築）、九州工業大学大学院（土木）、山口大学大学院（土木）、となりました。

企業は東証一部上場の大企業ですし、公務員への進路は国土交通省や県庁だけでなく、経済産業省本省や国立大学法人など幅が広がっております。大学院へは名の通った国立大学に、例年決まって進学しております。これもひとえに専攻科生の努力の賜物です。学士の取得は土木より建築が多くなりました。近年、難関となりつつある2級建築士免許試験にも2名が合格しております。

専攻科生活の成功の鍵は先憂後楽の姿勢で、目標とプログラムを2年計画を立て、TOEICの400点以上のクリアと国家資格取得をできるだけ早く行い、2年生は、とことん研究に打ち込める体制が重要だと思います。

最後の山場である学位認定試験をクリアするためには、12月に福岡で90分かけて自分の提出した学士審査論文の内容に対しての質問2問を記述で回答せねばなりません。自分の論文に対しては、専門用語から基本や応用を含め、何を聞かれても適切に答えられることが要求されます。

これからも目標を完遂して仕事を成功するためには、本人の資格と実力及びやる気と人望（信用・信頼）がものをいう時代です。

専攻科生は修了要件をクリアしてJABEE認定の工学士を取得し、技術的信用を得て、技術士受験が一次免除となり有利になるわけですから、今度は技術士（建設部門）の獲得をこれからの人生目標の一つにしていただければ幸いです。益々の御発展を祈念します。

就職

香川大学、経済産業省、西松建設、前田道路、山崎建設

進学

九州工業大学大学院、筑波大学大学院、東京工業大学大学院、山口大学大学院 順不同

就職・進学試験体験記

風のように過ぎた就職活動

機械電気工学科5年
岩見 昌範



私の就職先はソニーイーエムシーエス(株)湖西テックです。ここは、放送局で使われるVTRビデオカメラ等のプロユースマシンの製造を行っている会社です。しかし、この会社に決まる迄には様々な紆余曲折がありました。

私は徳山高専に入学した当初から、漠然と「卒業後は就職しよう」と思っていました。何処に就職したいかといった事は特に考えていませんでした。そしてそのまま時が過ぎ、4年生になり、いよいよ具体的な就職希望先を決定しなければならなくなりました。その時になって焦りながら、自分なりに会社調査などをしてみましたが、どうしても「ここだ!」と言える所を見つける事は出来ませんでした。そこで、先生に相談してみたところ、「悩んでいるのなら、会社訪問をしてみては?」というアドバイスを貰いました。私は、そのアドバイスに従い春休みの頃に4社ほど会社訪問をする事にしました。4社訪問してみて、作っている製品は違いますが、基本的な業務内容は何処も同じなのだという事を実感してしまって、私は、更に悩んでしまいました。しかし、何時までも悩んでいる訳にはいきません。悩んだ結果、私は第一志望をソニーイーエムシーエス(株)湖西テックに決めました。決め手となったのは会社の理念でした。この様に、よくよく会社を調べて、会社毎の特色に気付く事が出来れば、会社選択は少し楽になると思います。この会社調査は、会社選びの為だけでなく、履歴書や、面接の為に役立つので、しっかりと行っておくべきだと思います。

第一志望の会社が決まっただけで、就職が決まる訳はありません。まだ、履歴書作りや、就職試験(面接)が待っています。この履歴書や、面接で大事なものは、何でもいいので、自分の自慢出来る所をアピールする事です。このアピール出来る事があれば、試験官の印象に残る「濃い」履歴書作りや、面接が出来ると思います。このアピール出来る所が無いと、「薄い」履歴書や面接になってしまうので、何か一つでも自分のアピール出来る事を見つけておくといいと思います。何も見つからないという人でも、機械電気工学科の場合、創造製作という徳山高専独特な授業があるので、これを利用しない手は無いです。

就職活動を終え、思い返して見ると、もう少し早め早めに行動しておけば良かったな、という後悔があります。自分がどの様な所に就職したいかを考える事に早すぎる事は無い、と言うのを、いざ自分の問題になって実感しました。後悔先に立たず。「4年生になったらでいいや」、ではなく、

もっと早い内から、何となくでもいいので、自分は今後どうしたいのか、どんな事に興味があるのかといった事を時々考えてみる事も、大事だと思います。

就職先 ソニーイーエムシーエス(株)湖西テック

我慢の大学編入試験

機械電気工学科5年
兼行 哲史



高専に推薦で入学した私にとって、センター試験などのように受験のために勉強するという経験がなく、どこか他人事のような気がしていました。心の奥底で「それほど勉強せんでもいけるだろう」という油断があったと思います。

その考えが打ち崩されたのは過去問を入手したときからです。いざ試験会場に行ったときに、あの雰囲気と緊張感の中で参考書もなく解けるような気が全くしませんでした。そしてそれから我慢の連続です。まず家に帰って勉強するという習慣をつけることに苦しみ、今まで習ってきたことの総復習というとても範囲の勉強に途方にくれました。また、私が選んだ大学は試験日が8月末と遅かったために、就職組や進学組が次々と進路が決定していく中で、まだ自分は試験勉強を続けたいといけないう孤独感と、もしかしたら進路が決定しないまま終わるのではないかという不安感に襲われ、イライラすることも多かったです。さらにトドメとも思えるかのごとく第1志望の試験のときに体調を崩し、決して満足のいく受験状態ではありませんでした。

その結果第一志望には合格することはできませんでしたが、それでも我慢を続けてきたことは自分にとって確かなプラスとなりましたし、本当に嫌いな勉強というものに本気で取り組んだという自信を得ることに繋がりました。また、第一志望に落ちたことに対してそれほど後悔がないのも、「これだけやってきたんだ」と胸を張っていえるからだと思います。これから大学への進学、特に試験日程が遅めの人へのアドバイスですが、とにかく我慢です!イライラしすぎて、試験なんかどうでもよくなったり、破壊衝動に駆られたりするかもしれませんが、とにかく我慢です!もちろんいつでも勉強・勉強では身が持ちませんので、適度なリフレッシュを混ぜつつ、リフレッシュばかりしないように、時々自分に喝を入れながらがんばってください。

進学先 熊本大学

就職・進学試験体験記

私の就職活動

情報電子工学科 5年
佐伯 香保里



私が就職活動をするにあたって痛切に感じたこと、それは『就職活動の準備は早ければ早いほど良い』ということです。私は進路支援室が主催する進路支援セミナーに出席はしていたものの、SPI対策などの就職活動に向けての準備に取り掛かるのが遅かったと今になって思います。それは、「まだ時間はある」というある程度の就職活動に対する楽観視からきていたのかもしれませんが。

そして、その日はやってきます。就職試験を受けたいということを入材開発課の方にお知らせしたその日です。自分でもとても驚き、焦りました。なんと、就職試験がすぐ次の日に行われることになったのです。1日目は説明会と筆記試験を受けて大阪から周南市へ戻り、2日目は1次面接を受けてそのまま大阪で1泊し、3日目に2次面接を受けて周南市へ戻る・・・といった強行軍でした。履歴書は進路支援セミナーで事前を書く機会がありましたし、面接の練習も以前に2回していたため、少々パニックになったものの、そこまで焦りませんでした。作文も、国語は得意科目なのであまり困りません。問題は筆記試験です。これにはとても焦りました。少しずつSPI対策の本はやっていたものの、圧倒的にやっている量が少ないのではないかと思いました。また、私が受けたアトラス情報サービス株式会社はSPIではなく、適性検査と一般常識問題となっていたので、「どんな問題が出るんだろう・・・」ととても不安でした。そんな時、先輩が書いてくださった就職試験の報告書が心強い味方となりました。この就職試験の報告書によって試験の大まかな内容を知ることができ、落ち着くことができました。

結局、筆記試験では、英語や国語は難しかったものの、落ち着いて解くことができ、数学や専門分野の問題は今まで学んできたことを思い出しながら解くことができました。時事問題は、毎日新聞を読んだり、ニュースを見たりしていたことが結果につながったと思います。面接は、1次も2次も自分の言いたいことをはっきりと伝えることができ、全ての試験が終わって帰宅の途に付く私は、「自分がやれることは全てやった」と思うことができました。

私のように慌てないためにも、就職活動をする際には何事にも余裕を持って始めることをお勧めします。毎日の積み重ねが肝心です。就職活動は待ってくれません。先生方や先輩方から助言をいただくことも大切だと思えます。

最後になりましたが、私が就職活動をするにあたり、沢山の先生方や先輩方にお世話になりました。本当にありがとうございました。私のこの文章が

皆さんの参考に少しでもなれば幸いです。就職活動は大変ですが、頑張ってください。

就職先 アトラス情報サービス(株)

大学編入試験での経験

情報電子工学科 5年
堀内 徹也



皆さんは自分の進路についてもう考えているでしょうか。

私が大学進学を意識し始めたのは3年生の時でした。でも、進学したい、という気持ちが漠然とあるだけで何もせず、気づけば4年生の冬になり、進路希望の面談がありました。その時、何も具体的な目標が定まっていなかったことに気づきました。

結局、志望する大学を決めたのは5年生の春で、他の人に比べてかなり遅いスタートになりました。また、受験する大学をうまく絞りきれずに、多くの大学を受けました。それによって、勉強をはじめるのが遅れ、さらに、受験科目の違いや受験日程などの関係で、きっちりと勉強に取り組むことができませんでした。結果として、私の編入試験は満足できるものにはなりません。

もし、大学編入を考えているなら、「まだいいだろう」などと思わずに、できるだけ早めに準備をはじめることが大切です。編入試験を受けるには、まず、勉強をすることが一番大切です。推薦入試と一般入試があり、それぞれ試験の内容も変わってきます。大学によって、筆記試験の教科は違うし、面接試験があるところもあります。だから、自分の志望する大学では、どのような試験が行われるのか、傾向を調べて、対策を立てていくことが大切です。

また、勉強以外にも、募集要項などの資料請求や資料の送付、面接試験の練習、また、受験日前のホテルの予約など、意外とやらないといけないことがたくさんあります。複数の大学を受けるとなると、これらのことをしながら勉強をするのはとても大変です。だからこそ、普段からちゃんとした目標を持って、計画的に準備、勉強をしていくことが大切です。

過去に出題された問題を見てみたり、先輩から話を聞いてみるのもいいと思います。今からすぐにでも、できることを自分なりに考えて、行動を起こしてみてもはどうでしょうか。

進学先 広島大学

就職・進学試験体験記

就職活動を振り返って

土木建築工学科 5年
中村 瑠美



私は民間企業を進路に決め、数ある企業の中から大和ハウス工業を受験しよう決めました。そこでまず私が取りかかったのは、履歴書の作成でした。毎年、進路支援室が開講してくれる進路支援セミナーを受け、履歴書を作成したことがあるものの、まだまだ自分と向き合うことが気恥ずかしく苦勞しました。進路支援室の先生に無理を言って何回も添削をしていただき、なんとか完成させることができました。その時、私は「まだ時間があるから自分と向き合って履歴書を考えるのはまた今度でいいや」と、後回しにしてしまっていた自分を後悔しました。

そして、履歴書を送ってからすぐに試験を受けることになりました。大和ハウス工業は一泊二日の試験だったので、その準備に焦り、筆記試験のSPI・作文・専門試験の準備、一番大切な面接の練習もできずに試験に臨みました。試験会場に到着し、宿泊試験だったので、まず一緒に受験する人に話しかけ、仲良くなりました。そこで話していくうちに試験の形態などの情報を得たり、お互いの学校のことを話したりしていい刺激になりました。また、2日目の午前中に会社説明を聞き、働く人と触れ合ったりするうちに、「この人たちと一緒に仕事したい」という気持ちが強くなりました。筆記試験では思うように回答することができなかったので、面接試験では気持ちを入れ替えて臨みました。集団面接でしたが、あまり相手のことを気にせず、自分の伝えたいことを伝えることができましたと思います。準備には後悔する点は多くありましたが、自分のやるべきことはやったという達成感でいっぱいでした。

就職という、人生を左右するような選択をすることは大いに悩むと思います。そのようなとき、徳山高専には多くの先生方がいらっしゃるということを忘れてはならないと思います。私自身も、進路支援室の先生や卒研の先生に色々アドバイスをいただきました。相談することは大切だと思います。試験は自分との闘いですが、サポートしてくださる多くの方がいる事に感謝をしつつ、前向きに頑張ってください。

就職先 大和ハウス工業(株)

大学編入の厳しさ

土木建築工学科 5年
阿部 慶子



皆さんは、大学編入についてどのように考えているでしょうか。

私の場合は、4年生の前期に広島大学への編入を考え始め、夏休みにはインターンシップという形で実際に大学生活を体験しました。しかし、その後、他の大学のことも考えたり、また、4年生は高専の勉強が大変だったということもあって、実質、本気で受験勉強し始めたのは春休みからと遅いスタートをきってしまいました。

編入試験は、数学、物理、英語の3科目と面接がありました。数学と物理は、高専の授業で比較的基礎があるものの、英語は基礎が不十分だったし、自分自身が苦手ということもあり本当に苦勞しました。数学と物理は教科書の基礎問題から徹底的に勉強し、英語は単語と長文読解に力を入れ、ほぼ毎日、昼休みには分からないところを国重先生に指導していただきました。面接は、かなりスピーディーなものだと聞いていたので、1ヶ月前から、先輩が残して下さった過去の資料を参考に、自分で質問を考えて、基本的なことだけはスラスラと話せるように心がけました。実際の筆記試験では、完璧とは言えませんが一通り解くことが出来、面接はかなり練習していたので、落ち着いて話すことが出来ました。

まず、志望の大学を決めたら、試験科目や面接の傾向を把握して、勉強も面接練習も早めに取り組むことが本当に大事です。筆記試験では過去問にも目を通すことも大事ですが、それに気をとられてばかりではなく、まずは基礎をしっかりと頭に入れることの方が大事だと改めて感じました。面接は、やはり本番では少なからず緊張してしまうし、時間も限られているので、自分が絶対にアピールしたいことだけでも、きちんと言えようにすることが大事です。あとは、自信を持って、自分のやる気をしっかりアピールすることが出来れば、きっと大丈夫だと思います。私の文章を読んで、少しでも参考にいただければ嬉しいと思います。編入試験は険しい道ですが、悔いの残らないよう一生懸命頑張ってください。

進学先 広島大学

就職・進学試験体験記

大学院を受験して

機械制御工学専攻 2年
松村 泰裕



私が大学院を意識し始めたのは、本科4年生のときでした。中学生の頃からの友人が大学へ進み、その話を聞いているうちに興味がわいてきた、という単純な理由です。ただ、“大学へ行くなら大学院まで行かなければ意味がない”と勝手に思い込んでいたので、この頃から大学院を意識するようになりました。その後、大学院への進学を決め、進学へのルートとして、大学編入と専攻科入学の2通りを選択しなければならなくなり、専攻科から大学院を目指すことを決めました。このルートを選択したのは、専攻科から大学院へ進学しやすいという利点があり、一方編入では単位の互換性の問題があったためです。

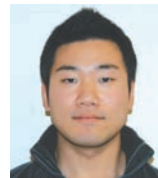
さて、ここからが本題ですが、大学院を選ぶにあたって、私はまず自分の研究室の先生にどの大学の研究室がどのような研究をしているかを聞きました。そしてその後、インターネットでそれぞれの大学の研究室について調べました。興味のある研究室はいくつかありましたが、最終的に山口大学の理工学研究科に進学する事を決めました。なぜなら、山口大学の研究室には、大学院選びを始める前から学会発表の合同練習等で訪れる機会があり、研究室の雰囲気が自分に合っていると思ったからです。試験は面接のみで、自分の考えや、大学院の卒業後の希望就職先とその理由などをしっかり持っていれば問題ないと感じました。

それでは最後に大学院進学を目指している人にアドバイスを、と言いたいところですが、たいしたことが書けそうも無いので、今思えばこうすればもっと良かったと感じていることをぼやきます。まず、全国クラスの学会に参加（見学）し、論文では見えないそれぞれの大学の研究の雰囲気を感じ取ることです。次に、大学院選びを始めるなら早ければ早いほど良いです。これは、私は諸事情により若干スタートが遅くなってしまい、少し焦ってしまうことがあったためです。早く、積極的に動く事が大切だと思いますので、大学院を目指す方は参考にしてみてください。

進学先 山口大学大学院 理工学研究科

大学院受験の道のり

情報電子工学専攻 2年
川崎 仁



私が進学を考えたのは本科4年の後期でしたが、進学するなら大学院まで行きたいと考えました。そこで、家計などを考え、「専攻科→大学院」を決めました。

ところが、危機感の無さから、具体的に大学院について考え始めたのは専攻科1年の後期からでした。「ソフトとハードの境界」としての組み込みシステムに興味がありましたが、当初は迷い、ロボット工学や生体工学にひかれたりもしました。しかし、何か違うと考え直し、最終的には、やはり組み込みシステム自体の研究をやりたいと考えました。それが、年明けの1月だったように思います。

次に、研究内容などを調べて興味をひかれる研究室を選んでいき、3つの研究室に絞り込みました。『研究室訪問は早めにした方が良い』と聞いていたので、すぐにメールでアポイントを取り、春休み中の3月に3ヵ所訪問しました。この研究室訪問がとても大きかったと思います。

その後、直前まで考えて研究室を決めました。理由としては、研究内容と雰囲気が自分に合っていたこと、推薦入試があったことなどがあります。早く両親を安心させたかったこともあり、推薦入試を受けようと考えました。試験は、事前に研究計画書を提出し、本番は小論文と面接という流れで、準備に際しては、大学院の先生や先輩から助言や情報をいただきました。また、本校の先生方にも指導や励ましをいただきました。本当にありがとうございました。幸いにも合格通知をいただきました。今は期待と不安の両方を感じています。

アドバイス（というより反省点）としては、「早め早めの準備」に尽きます。外部から受験する場合、まず情報集めです。早めに自分のやりたいことを定め、研究室を調べましょう。入試勉強についても、早めに過去問を入手して問題を確認してください。自分が動かないと誰も動いてはくれません。

最後になりますが、もし進学に関して聞きたいことがある人がいれば、遠慮なく連絡してください。

進学先 筑波大学大学院 システム情報工学研究科

就職・進学試験体験記

本年度の就職・進学状況

環境建設工学専攻2年
石田 さやか



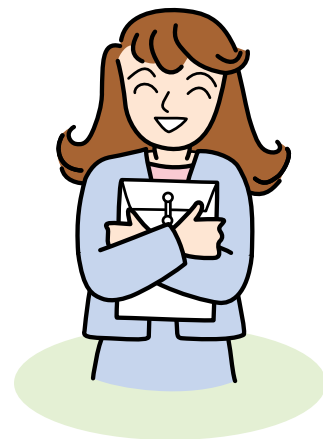
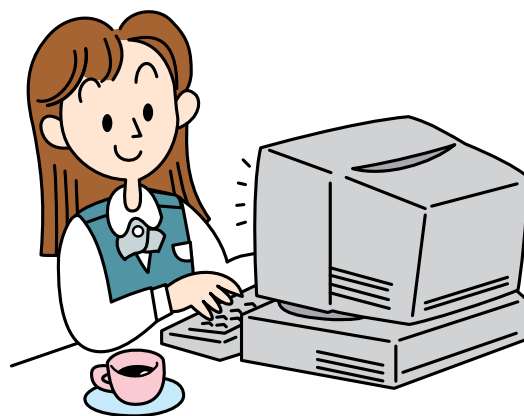
私は、前田道路株式会社に就職が決まりました。この春から、東京勤務となり、新しい生活が始まります。

私が前田道路を受けるきっかけとなったのは、一昨年のインターンシップに行ったことです。2ヶ月間、現場の仕事を見ながら一緒に仕事をさせてもらい、自分の就職を決める上で、とても良い経験となりました。また、社員に高専卒専攻科卒が多いため、高専生への理解が大きいことも志望理由の1つとなりました。そして試験の時に、こういった自分の情報を会社に伝えることで、良い結果につながると思います。

以前の専攻科生の就職状況は、あまり良くなかったことから専攻科への進学を見合わせる学生もわずかながらいました。しかし、建設業界も上向き傾向にあり、専攻科生への就職状況も良くなりました。今年は、先生方の協力もあり、就職状況は男女関係なく、技術職や公務員と就職が決まっています。大学院へ進学する学生も希望する学校に決まる事ができました。

専攻科生は本科生と違い、自分の研究を持っています。その研究を進めていく上で、周辺知識を広げることができます。また、資格への挑戦や自分の将来を考える時間が持て、本人の意識次第で充実した2年間を過ごす事ができます。そのため私は、就職・進学を控えている学生のみなさんの選択肢の1つに専攻科をいれてほしいと思います。そこで、専攻科で将来に繋がるインターンシップや語学研修の経験を積み、資格や様々なことに挑戦し、専攻科を高専の中心にしてほしいと思います。そして、学び得た事を活かせる会社に就職して一生懸命働いてほしいと思います。

就職先 前田道路(株)





前の会社を振り返って ～中国そしてカメラとの出会い～

機械電気工学科 第22期卒 キヤノン株式会社
元長 優作

皆さん、こんにちは。

私は9年前に徳山高専の機械電気工学科を卒業しました。高専生の頃はロボットコンテストに熱中しており、当時は多くの人に使ってもらえる民生品設計の仕事に就きたいと考えていました。

高専卒業後は大学を経て、大阪にある家電メーカーに就職しました。その会社は生産コストを下げることを目的にアジア各国に工場を持ち、安価な労働力で製品を生産していました。新人研修では、生産現場を学ぶために海外工場で働くことになり、私も中国の工場で現地の方と一緒に生産ラインに立ち、毎日2,000台ほどのプリンタを組み立てました。

研修は2ヶ月も続いたため、中国の文化・習慣に慣れるには十分な時間だったと思います。地球上の大半の人は日本のように整然とした環境で生活しておらず、研修先でも建物の壁が歪んで塗られているなど、海外の状況をあまり知らなかった私からすればツッコミどころ満載で、この研修はとても良い経験になりました。また、研修中に片言の中国語を覚えたので、現在は正月やお盆など長期休暇の度に中国の各地をバックパッカーのように旅行しています。

研修が終わり帰国すると、私は新設されたデジタルカメラの部署へ配属され、主に回路設計やソフト制御を担当しました。当時の私はカメラに関する知識はほとんどありませんでしたが、仕事をしながらカメラについて勉強していくうちにとっても面白い製品だと思えるようになりました。デジタルカメラは、レンズの焦点合わせや露出設定など、昔のカメラでは手間のかかる操作を自動的に行うことができます。それに加えて各社独自の画像処理で絵作りを行い、サイズやデザインなどの外観で独自性を出し、顔認識のような補助機能を競っ

て追加して簡単により写真を撮影できるような工夫をしています。カメラは被写体の構図や撮影の方法など、使い方の面でも学ぶことが多く、とてもやりがいのある製品に出会うこともできました。また、ほとんどの旅行客はカメラを携帯しているため、旅先ではついつい自分の担当した製品のユーザーを探してしまいます。実際に製品を使用しているユーザーの反応を直接見ることができるのも、この製品の良いところです。

私が勤めていた会社は、“OEM”といって他社ブランドの製品を主に設計・量産して、その製品を取引先に売ることによって商売をしていました。私が研修中に組み立てたプリンタや、設計したカメラも北米メーカーの製品です。特に私達の設計したカメラは国内で販売されなかったこともあり、残念ながら今のところ日本人のユーザーには出会っていません。

そうこうしているうちに、このデジタルカメラの部署は他社からの設計・量産依頼が少なくなり、昨春廃部になりました。私たちは他の部署へ異動することになりましたが、私はもっとカメラの設計を続けて、知識を深めたいという思いが強く、昨夏に今の会社へ転職し、現在もカメラの設計を続けています。今年、いよいよ私が担当した製品が国内の量販店に並ぶので、今からとても楽しみにしています。

そんな私が高専の頃を振り返ると、ロボコンに熱中していたので充実した毎日を過ごしていましたが、学生の頃に個人で海外へ出ていたら、もっと人生観が変わっていたように思います。私が高専生だった20世紀と比較して、現在は海外の情報や格安航空券を比較的簡単に入手できるため、海外へ出るための敷居が低くなっています。若い頃に海外の文化に触れることはとても良い経験になると思いますので、機会があれば積極的に海外生活にトライしてみたいと思います。

(・▽・) ヲ (・▽・) ヲ (・▽・) ヲ





新しい未来を 開拓する

情報電子工学科
第25期卒
NTT東日本
岸 秀太

はじめに

徳山高専の情報電子工学科を卒業後、5年生のときの恩師である江口教授の推薦もあってNTTコムウェア(株)に就職しました。それから、5年の月日が流れ江口先生と連絡を取り合っていたところで、卒業生近況を書いて欲しいと強く要望があり、若輩な身分ではありますが書かせていただくことにしました。

私の仕事

NTTコムウェアに就職して、配属されたのはNTTの研究所と協働して、Web系の情報流通プラットフォーム開発をする部署でした。私が担当したのはJAVAでのコーディングで、高専時代の経験が生きて非常に足調で高専のカリキュラムのおかげで助かったと今でも思っています。

その後、電話網をやりたい!との希望もあって、SIPサーバ(IP電話交換機)の開発に携わることになりました。この開発で、今までに無い危機に見舞われました。ニュースなどでご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、NTT東西の「ひかり電話(ビジネスタイプ)」で2006年に立て続けに起きた通話ができなくなるトラブルです。このときは、問い合わせは多いし、原因解析から今後の対策まで一気に考えないといけなかったのも、非常に大変でした。でも、この一件で得たものは大きかったです。ピンチからの対応で信頼を得ることもできましたし、自分の設計しているものが世の中に与えているインパクトを実感し、世の中になくはないものを創っているのだと改めて思うことができました。

現在は、その延長でNTT東日本の本社で働いており、ソースコードを全く見ることもなく会議ばかりの毎日になりましたが、次世代ネットワークといわれているNGNの需要予測などからサーバーの要求事項、方式検討までを行っております。NGNでは現在の電話網では実現できなかった新しいサービスを創出し、お客さまにより付加価値の高いコミュニケーションサービスを提供できるようになります。例えば、HD(ハイビジョン)映像通信や情報家電との連携による介

護やセキュリティを安定的に利用できるようになります。これらは、新世代のネットワークに繋がっていくターニングポイントになると思っていますし、新しい未来に向かって非常に楽しく仕事をしております。

社会人の一年目なんて

こんな私ですが就職後の研修は1ヶ月と短く、はじめは担当業務もさることながら、ビジネスプロセスの流れも分からず、悪戦苦闘。コーディングや設計はできても、会議などの資料を作るにあたって、どのような情報を必要としているのか全く分からず、何度も指導されてようやく“読める資料”になるという非生産的な状態でした。そんな私でも5年目にもなると、期待される結果を(多少は)出せるようになり、後輩を指導する立場にもなっています。ですので、皆さんもすぐに辞めたりせず頑張ってくださいと思います。

高専時代の仲間

このように頑張っているのも、高専時代の優秀な仲間と情報交換(飲み会)をしているからでもあります。会社は違っても同じような悩みを抱えていたり、意外な急成長を遂げたりと面白いです。

最近、大学院を出てNTTグループに就職した人と話をしている、私の出席している会議で決定したことで仕事が忙しくなっていることが発覚。ちょっと、本人に愚痴られましたが、高専の仲間がこんなに近いところで仕事をしていると知って、より楽しく仕事できていますし、私に色々な面で付加価値をつけてくれていると思っています。

今の高専生への一言

ページの都合もあり、言い足りない部分が多いのが残念ではありますが、最後に一言だけ。振り返ってみると、高専時代に経験したこと、そして何よりも仲間が生きてくると思います。そのためにも、充実した高専生活を楽しんでください。そして、新しい未来を開拓できる社会に必要な人になって欲しいと思います。



会社からの夜景

高専・大学教員になるまで

土木建築工学科 第19期卒
愛媛大学大学院 理工学研究科
生産環境工学専攻 助教 海田 辰将

私は、平成9年3月に土木建築工学科を卒業し、広島大学工学部に編入して同大学大学院理工学研究科博士課程後期を修了した後、高知高専建設システム工学科助手に着任しました。その後、3年半の高知高専生活を経て平成19年10月1日に愛媛大学に転任し、現在に至っています。本稿では、私の高専時代から大学時代、高専・大学教員になってから現在までについてお話しします。

私の高専時代で最も印象に残っていることと言えば、卒業研究とクラブ活動でしょうか。卒業研究では、メンバー5人と水理実験に明け暮れたことが、良い思い出として残っています。時にはメンバーと喧嘩をしたり、研究室に寝泊りすることもありました。この経験から、自分で考えることの大変さ、チームワークの大切さを学びました。クラブ活動では、3年間アーチェリー部の主将を務めた経験から、クラブをうまくまとめることの難しさ、リーダーとしての人間性や指導力を鍛えられました。今思えば、これらの徳山高専での経験は全て、あらゆる場面でその後の私の糧になっていると思います。

私が『教員』という道を意識し始めたのも、高専4年生の頃で、その理由は2つあります。1つは人に勉強などを教えて、感謝されることの喜びを知ったこと。もう1つは、先生方の影響です。

広島大学では、単位認定数が極端に少なく、いきなり留年の危機に晒されたわけですが、このとき、一般学部生や他高専からの編入生たちが大きな支えとなってくれて乗り切ることができました。彼らは一生の友達（戦友）です。学部4年から、土木構造工学研究室に配属され、指導教官の下で構造物の数値解析に関する卒業研究に取り組みました。

大学院時代は、老朽化した鋼桁橋の強度評価技術に関する研究と磯釣りと飲み会に没頭しました。先生の指導方針で、積極的に研究成果を発表させていただき、国内はもちろん米英韓伊国でも発表し、国際経験も英語力もゼロだった私を一から鍛えていただきました。大学には7年間在籍していましたが、大学で身につけた知識以上に、多くの仲間と出会ったことが、大きな財産だと思っています。

平成16年度から高知高専に赴任し、念願の教員生活がスタートしました。高知高専では、自由奔放に授業や研究、学生指導をさせて頂きました。寮務主事補佐をはじめ、様々な校務に携わる中で、一番楽しいけれども緊張する瞬間は、やはり学生

と直接接する時です。リアルタイムで求められる適切な対応と、教員として発する私の言葉の重みを痛感させられます。私の言葉ひとつで人1人の人生が変わることだってあるのですから。

クラブ活動では、弓道部顧問をしていましたが、高知高専弓道部の学生たちはみな素直で、新米教員の私をすぐに受け入れ、心底慕ってくれました。

写真は、H18年度全国高専選抜弓道大会で優勝した日の夜のもので、みんな良い顔をしています。このような喜びを学生と分かち合えるのも、高専教員の特権だと思います。

高専教員という仕事は本当に大変で「学生が好きでないとできない仕事」だと思います。と同時に、プライスレスな成果を追求するやりがいのある仕事であり、多大な魅力と誇りを感じます。

現在、私は自身の視野を広げ、スキルアップを図るべく愛媛大学に身を移し、3ヶ月目になりますが、今度は大学教員としての自分を模索しながら、研究と学生指導に取り組んでいます。いつかまた高専教育の舞台に戻ることも考えています。

後輩の皆さんも、徳山高専で学んでいるという自信とプライド（高専魂）をもって、今やるべきことを見失わないように一生懸命がんばってください。私が一人の先輩として、後輩の皆さんにアドバイスできるとすれば、それは「人と人とのつながりを大切に」、「教えてくれる立場の人を如何にしてその気にさせられるか」です。徳山高専の卒業生でよかった、全員がそう思えるような高専生活を願っています。



写真 高知高専弓道部優勝記念撮影(中段右が海田)

退職者あいさつ

世界の教育の先頭を走る徳山高専



機械電気工学科
教授 門脇 重道

何とオーバーなど、お思いのことだろう。しかしこれは私が徳山高専で取り組んできた教育の結論なのである。その理由と証拠を簡単に示してみよう。

まず今はどういう時代なのだろうか。産業革命によって工業文明が始まったが、現在は情報が主要な役割を果たす情報文明の時代となった。情報文明の時代には、情報、知識を得ることは、子供でも大人でも誰でもインターネットの前に座れば容易にできる時代である。この条件を活用するとどのようなことができるかということを、本校の学生が実証している。それは論文コンクールで、高校年齢段階の高専生が、大学の上級生と同程度の知識力、思考力を発揮できるということを、大学の上級生に競り勝って入賞してしまうということを示した。また幅広い知識を得ることから、課題発見能力、アイデア考案能力を養い、社会に有用な特許を生み出すことができることも示して見せた。

高校年齢段階の高専生が、大学の上級生に負けない思考力を発揮するばかりでなく、世の中で有用な特許まで考え出せるということは、従来の工業文明の時代の教育には想定できなかったことであり、情報文明の時代だからこそ可能になったことなのである。

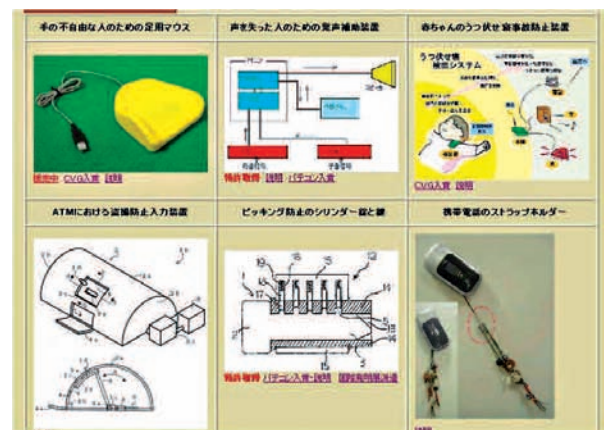
これらの事実は、情報化時代の教育が大きく変わらなければならないことを示すものである。工業文明の時代の教育は、知識の教授が主要な役割であったが、情報化時代の教育の主要な役割は、情報獲得能力の高まった頭脳が、その活躍する場所を見つけ、活躍する上での土台作りをサポートすることにある。

このような観点からみると、知識の獲得量と理解度を測定する大学入試を前提とする高校教育は、工業文明の時代の教育システムであり、もはや情報化時代の頭脳に対応しがたくなっている。

これに対して本校の創造教育は、情報化時代の頭脳に、その活躍する場所を提供し、さらに、その頭脳が有用な価値を生み出すことのサポートも行っている。特許は物的資源のない日本が、これからの社会を支えていく上で必要とする知的資源であり、これ抜きには日本社会は成り立たない。

それを高専時代から生み出すことは、社会にとって有用な価値づくりに対する意欲をもとに、特許作成や商品化の取り組みを通して専門科目を使うことによる、学習の動機作りや確認作業にもなるのである。すなわち情報化時代の特性を活かせば、自らの意欲で創造的な技術者になっていくという、教育のあり方の理想的な姿がここには実現しているのである。

高専制度は日本にしかない教育制度であるが、大学入試がなく大学教育に進めるという特性が、情報化時代の教育の先頭に立つことを可能にしたのである。この特性を活かした教育を実現したのが徳山高専であり、諸君は今、どこの国でも実現できていない、情報文明の時代の教育の先頭にいるのである。諸君が切り拓く新しい時代の幕開けに大いに期待し、別れの言葉とします。



学生特許の一例

君たちはすばらしい



土木建築工学科
教授 藤原 東雄

本校に赴任して33年が経過しました。横浜で家内と子供1人と住み、会社勤めをしていました。初代校長の城先生から手紙が来て、徳山高専ができたこと、後年、宇部高専の校長になられた大原先生の紹介であること、会社での経験を学生に教えてほしいこと等が書かれていました。当時、会社では研究所と現場を抱えて、忙しい日々でした。迷いましたが、妻に相談したところ、「好きにしたら」の一言で決めました。その年は偶然に土木学会が広島で開かれたので、発表するついでに、富岡の仮校舎に行きました。

城校長と初代土木建築の学科主任の石原先生と話をした後、徳山高専の校舎の建設現場を見学しました。管理棟が建設中でした。翌年私が赴任した年に管理棟が完成し、私が退職する年に、その管理棟が改築されています。因縁を感じると同時に時が過ぎたと感じています。

以前は兄弟姉妹で我が校の学生であることが多かったのですが、最近では卒業生の子供が入学してくる場合が多くなりました。土木建築工学科では、卒業生の子供が1年生から5年生まで居ます。このことも時が過ぎたと感じています。嫌いな学校に子供を入学させることはないと思うので、それだけ我が校に期待していると思います。

高専に入学する学生は優秀であると思います。しかし、目標が見つからず、無為に時間を過ごす学生もいることは事実です。論語にもこんな場面があります。「宰予が怠けて昼寝をしていた。先生がおっしゃった。朽ちた木には美しい彫刻をほどこすことができぬ。ごみ土でどべいを作っても美しい上塗りはできぬ。宰予に対して何を叱ろうか。叱ってもしかたないのだ。先生はまたこうもおっしゃった。前は私は言葉を聞いてその人を信用した。しかし、今は言葉を聞いてさらに行いを観察し、やっとその人を信用する。宰予以来考えを改めたのだ。」（一論語公治長編5-10、呉智

英意識一）ここで先生とは世界最初の思想家孔子である。孔子は優秀な学生が、いや、優秀な学生であればあるほど、無為な時間を過ごすことは許されないと考えていたと思います。

1 昨年、昨年と私は最後の4、5年の担任をしました。担任をする時、王監督がWBCで優勝した時、選手に「君達はすばらしい。」と言いました。君達が卒業する時にこの言葉を私も言いたいので、君達もこれに答えてほしいと言いました。そして卒業式の夜、謝恩会の最後の挨拶をする時「君達はすばらしい。」と言えました。すばらしい人生を送ってほしいと思います。



卒業生のソンポン君と新妻 バンコクにて

新任者紹介



ひらの ゆきひろ
校長 平野 千博

◆ご出身はどちらですか？

北海道砂川市です。札幌の北60キロほどの地点にあります。北海道で最も長い川は石狩川ですが、その中流の東側にある町です。私は、高校を卒業するまでこの町で暮らしました。

砂川は、ここ周南に比べると、大変小さな町でした。私が住んでいた頃、今から50年くらい前の砂川は、人口3万人程度で、東側には山が広がり、西側には石狩川が北から南へと流れていました。近くの山の中にいくつか炭鉱町があり、石炭が盛んに掘り出されていました。そして、その石炭から化学肥料を生産する大きな工場が町の南にあり、私の父は、そこで働いていました。

私が中学に進学した頃から、化学産業の原料は石炭から石油へと転換し始め、それに伴って工場の縮小、撤退が起こり、多くの人々が砂川を離れることになりました。最終的には、私の父も、家族を連れて九州に移り住むことになりました。私が大学に通うために札幌に住んでいた頃のことです。

以後、砂川を訪れることはほとんどなくなりましたが、今でも、砂川で暮らしていた頃のことはよく覚えています。

砂川の人口は、石炭産業の衰退に伴って減少し始め、今では2万人を切っているようです。地域の産業が衰退していく、それに伴って、友人が家族とともに次々と町を去っていく、そういった状況は、非常に寂しく、辛いものです。このような経験から、地域の産業は大切にしなければならないと強く感じています。

◆周南の印象はいかがですか？

高専から市街地を眺めると、市街地の向こうにコンビナート工場群が広がり、さらにその向こうに海が見えます。海は、よく見ると、行き交う船で賑やかです。この景色に、なぜか魅力を感じます。人々の暮らしの息吹が感じられるからでしょうか。

気候は温暖で、寒い土地に育った私には、大変ありがたく感じます。夏はちょっと暑いですが、砂川の冬の厳しさ、吹雪の辛さに比べれば、どうということもありません。

また、周南では、身近に見られる自然の豊かさに驚かされました。校長宿舎の側を流れる東川はきれいで魚がよく見えます。夏には虫も見られます。川には魚や虫を狙って様々な種類の鳥がやってきます。これまでに住んだ町で身近に見ることのできた鳥は、カラスとスズメくらいではなかったかと思いますので、住居の近くでいろいろな鳥が見られることは私にとっては新鮮な驚きでした。

◆徳山高専の印象はいかがですか？

徳山高専から受けた最初の印象は、地域の方々から愛されている高専ということです。これまで多くの地域の方々と話をしてきました。皆さん、徳山高専に親しみを感じていることがよくわかりました。子弟の有望な進学先候補の一つとして考えていただいている方も多いように感じました。地域にこれだけファンの多い高専は、他にはあまりないのではないのでしょうか。

また、人材を輩出している高専という印象も強

いです。これまで多くの徳山高専卒業生の方々と話しをする機会がありましたが、皆さん、立派な人ばかりですし、徳山高専で学んだ頃のことを自分の青春の良き思い出として大切にしているように感じました。

これらのことは、これまでの徳山高専の教育研究活動が、地域の方々からも、徳山高専の卒業生の皆さんからも、高く評価されていることを示していると思います。

◆本校に赴任される前に、科学技術庁や大学での勤務をご経験されていますが、今振り返るといかがですか？

昭和50年から科学技術庁（現在の文部科学省）の一員として働いてきましたが、勤務場所は様々でした。もちろん東京都内の科学技術庁庁舎が一番長いですが、それ以外にも、日本国内では、茨城県東海村、茨城県筑波研究学園都市（現つくば市）、埼玉県川口市、岩手県滝沢村（盛岡市の北に隣接する大きな村）といった地域で働き、海外では米国の首都ワシントンで働いたことがあります。仕事の種類も、予算事務、国会対策、地域対策といったいかにも役人らしい仕事から、博覧会の運営、海外事務所の駐在員、科学技術政策に関する調査研究、そして大学の教員まで、様々なことをしました。

科学技術庁という役所に入って良かったことは、様々な場所、様々な仕事を体験でき、そして様々な人に出会えたということだろうと思います。元来好奇心旺盛な私にとって、仕事の過程で多くの新しい事に出会えたことは非常に幸運なことであったと思っています。

◆ご家族は？

家族は、妻と子ども2人（長男と次男）です。長男はすでにサラリーマンとして独立しています。次男はまだ家にいます。

家族との思い出としては、平成6年に私の仕事のために突然家族で米国に住むことになったことが印象に残っています。私の家族は、皆英語ができなかったため、少しパニックになりました。特に子どもは、現地の学校（長男は高校、次男は小学校）に転校し、英語しか通じない環境に

いきなり放り込まれたので、最初は大変だったようです。しかし、子どもの適応力は大したもので、すぐに（といっても、滞米2年目頃からです）が、・・・）会話は何とかできるようになり、米国人の友人もできるようになりました。渡米してすぐの頃は私が子どもに英語を教えていたのですが、あっと言う間に立場が逆になってしまいました。

米国での生活は3年間続きましたが、家族の努力のおかげで何とか切り抜けることができました。このときの家族の協力については、今でも感謝しています。

◆ご趣味はなんですか？

好奇心旺盛な性格の割には、趣味はあまりありません。前校長の天野先生は、トランプのブリッジその他多くの趣味を持つ非常に多才な方でしたので、私から見ると、うらやましい限りです。

高校生の頃の私は、基礎科学に非常に興味があり、科学研究を一生の仕事にしようと思ったこともありましたが、実際には科学研究を仕事とすることは難しかったので、それなら科学研究をサポートするという形で科学研究に関わり続けようという気持ちから、科学技術庁に入ることにしました。というわけで、今でも、基礎科学のことには興味を感じており、科学に関する本はよく読んでいます。最近では忙しくて、ちょっと途絶え気味ですが、それが趣味と言えば趣味かもしれません。

◆高専生と同じ16歳の頃はどんな若者でしたか？

16歳の頃は高校生でしたが、ちょっと変わった高校生だったと思います。科学、中でも物理学に興味があり、相対性理論とか量子力学というような当時の高校の授業には全く登場しないようなことに関する普及啓蒙書（講談社のブルーバックスシリーズのようなもの）を読み漁っていました。

学校の授業でも、なぜ運動エネルギーが「 $\frac{1}{2} \times \text{質量} \times \text{速度} \times \text{速度}$ 」になるのかがどうしても納得できず、考え込んでいたことを覚えています。実用上はとりあえず公式を暗記しておけばよいので、あまり深く考え込む必要はないのですが、それでも気になって仕方がなかったのです。

このような関心を一緒に分かち合える友達はそのようなものではありません。したがって、このようなことは一人で考えていました。そのため、私の友人たちには、私はいつもどこかぼんやりしている人に見えたことと思います。

それでも友人はたくさんいました。もちろん、友人との間の話題は、共通の興味、関心に関するもので、物理学について語り合っていたわけではありません。その頃の友人たちは、今では全国に散らばっていますが、まだ近況を報告する年賀状の交換が続いています。

高校生の頃の関心事であった物理学については、大学で詳しく勉強することができました。おかげで、運動エネルギーの公式の謎や空の色が青色である理由など、いろいろなことについて納得のいく説明を得ることができました。それでも自然の成り立ちの中には私にとってまだ謎であることがたくさん残っています。書物によると、学界ではすでに解明されているとされているのに私にはまだ納得できていないことがたくさんあり、それらの問題についての説明らしき書き物を見つけると、ついつい興味を感じ、読みふけてしまいます。

大学院修士課程までは、そのような自然に対する素朴な好奇心を原動力として勉強を続けてきましたが、それを一生の仕事にすることはしませんでした。

仕事としては、科学技術庁という役所で、科学技術の研究開発を支援する仕事に携わることになりましたが、物理学に対する好奇心は、上述のように趣味として今でも大切にしています。

◆徳山高専をどんな高専にしたいですか？

徳山高専は、卒業生の方々に誇ってもらえるような高専になってほしいと思っています。ここで勉強した皆さんが、後で高専時代を振り返ってみたときに、ここで勉強して良かったと思ってもらえるような高専、周囲の人について自慢したくなるような高専であってほしいと思います。

徳山高専は、これまでの学生や教職員の皆さんの努力のおかげで、すでにそのような高専になっていると思いますが、そのような徳山高専の特長がもっともっと明白で顕著なものとなり、広く世の中に知られるようにしていきたいと希望してい

ます。

◆最後に、本校の学生にメッセージをお願いします。

徳山高専は、実践力のある技術者の育成を目指している高専です。学生の皆さんに実践力のある技術者に育ってもらうために、本校の教員や職員は、努力を重ねています。さらに、この学校の運営のためには、少なからぬ税金が投入されています。そして、皆さんのご家族にも学費の負担をお願いしています。

学生の皆さんには、こういった人たちの努力や負担があってはじめて皆さんの勉強や課外活動が可能になっているということを忘れないでほしい、そして、こういった努力や負担をしている人たちの期待に応えるためにも勉強や課外活動に頑張ってもらいたいと思っています。

この学校で送る青春の5年間（専攻科まで進学すると7年間）は、皆さんにとって大変貴重な5年間です。大切にしてください。私たち本校の教職員は皆さんの勉強と課外活動を全力で応援します。

平野千博校長略歴

- 昭和25年10月 北海道砂川市生まれ
- 昭和48年 3月 北海道大学理学部物理学科卒業
- 昭和50年 3月 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
- 昭和50年 4月 科学技術庁（現在の文部科学省）採用（以後、原子力局核燃料課を皮切りに、1~2年間隔で様々な部署に異動しましたので、平成4年までの詳細は略します。）
- 平成 4年11月 科学技術庁科学技術政策局調査課長（平成5年12月まで）
- （平成6年1月から少し略）
- 平成 6年 6月 日本原子力研究所（現在の独立行政法人日本原子力研究開発機構）ワシントン事務所所長代理（平成9年6月まで）
- （平成9年7月から少し略）
- 平成10年 4月 岩手県立大学教授
- 平成14年 4月 文部科学省科学技術政策研究所総務研究官
- 平成17年 4月 国立大学法人政策研究大学院大学教授
- 平成19年 4月 独立行政法人国立高等専門学校機構徳山工業高等専門学校長



一般科目
准教授 おがわ 小川 ひとし 仁志



機械電気工学科
助教 きたむら 北村 けんたろう 健太郎

◆ご出身はどちらですか？

京都市伏見区です。実家は稲荷神社の総本山と紅葉で有名な東福寺の間にあります。

◆本校にこられる前はどちらに？

伊藤忠商事（東京）と名古屋市役所（名古屋）を経て西へ西へと…。

◆徳山高専の印象は？

映画『ロボコン』で予習？した際、思い描いたとおりの素敵なところでした。

◆ご家族は？

妻と娘と息子の4人家族です。

◆ご趣味はなんですか？

人生で初めて仕事が趣味になりました。幸せです。

◆今後の抱負をお聞かせください。

常に生き生きと、周囲の期待を裏切らないキャラクターであり続けたいですね（ちょっとしんどいときもあるけど）。

◆ご出身はどちらですか？

東京都です。大学進学後は13年間福岡で暮らしていました。すっかり九州になじんでしまったので、初対面の人には東京出身といってもあまり信じてもらえません。

◆本校にこられる前はどちらに？

東京の情報通信研究機構というところにおりました。地上からの観測でオーロラなどの宇宙環境擾乱を調べるという研究で、観測機を担いであちこち飛び回っていました。

◆徳山高専の印象は？

学校から街を見下ろしたときの景色のよさが最初の印象でした。高専は初めてでしたが、（自分が学生のときを思い返すと）高専の学生はよく勉強するなぁとホントに思いました。

◆ご家族は？

妻と1歳の男の子がいます。宿舎の周りには大きな公園が多いので子供の遊び場には不自由しません。

◆ご趣味はなんですか？

車でふらふらドライブするのが好きです。噂には聞いていましたが、山口は本当に道がよいので驚きました。

◆今後の抱負をお聞かせください。

これまでは研究畑ばかりでしたが、今後は教員として学生の役に立てるように日々試行錯誤していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



情報電子工学科
准教授 こんどう ゆうじ
近藤 祐史



総務課契約係
係員 はぎはら じゅん
萩原 淳

◆ご出身はどちらですか？

愛媛県松山市です。柳井からフェリーで着いたところですね。

◆本校にこられる前はどちらに？

詫間電波工業高等専門学校に勤務していました。1年間の高専間教員交流で徳山へ来ることになりました。

◆徳山高専の印象は？

坂が素晴らしいですね。詫間高専も行くまでに坂があったのですが、徳山よりは緩やかでした。

◆ご家族は？

妻と子供2人の4人家族です。徳山では一番長男（小2）が楽しんでます。

◆ご趣味はなんですか？

コンピュータでしょうか。趣味と実益を兼ねています。あと、木工も好きなのですが、なかなかする時間も道具も場所も材料もなく。。。。

◆今後の抱負をお聞かせください。

短い間ですが、よろしくお願いいたします。何かを残せるといいのですが。。。

◆ご出身はどちらですか？

山口県周南市（旧熊毛町）

◆本校にこられる前はどちらに？

山口大学事務局

◆徳山高専の印象は？

絶景。周南の街並みや高速道路が望める学校はなかなかありません。学生の頃何度か来たことがあります。相変わらず自然の豊富な学校だと思いました。

◆ご家族は？

独身です。

◆ご趣味はなんですか？

運動。高校時代は下松高校サッカー部に所属しており、今も続けています。最近は昼休みにバレーボールかソフトバレーをしています。

◆今後の抱負をお聞かせください。

昨年4月に赴任して9ヶ月が経過しましたが、まだまだわからないことも多いので日々格闘しております。皆様には色々ご迷惑をお掛けしておりますが、いい仕事ができるよう努めていきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。



学生課
学生係長 なかむら としゆき
中村 年行



学生課学生係
看護師 ひろばやし さなえ
廣林 早苗

◆ご出身はどちらですか？

防府市です。

◆本校にこられる前はどちらに？

山口大学学生部国際課

◆徳山高専の印象は？

周囲に建物がなく、大変静か。

◆ご家族は？

妻、息子（中学2年）

◆ご趣味はなんですか？

ウォーキング

中国語会話の習得（初歩ですが、大変厄介で苦労しております。）

◆今後の抱負をお聞かせください。

徳山高専に少しでも貢献できればと思っています。

◆ご出身はどちらですか？

周南市です。

◆本校にこられる前はどちらに？

子どもと関わる職に魅力を感じ、昨年度まで小学校や高等学校で養護教諭をしていました。

◆徳山高専の印象は？

保健室で見せる学生さんの素直な表情が印象的です。学業と部活動を両立させる努力家が多いのかな…と感じます。

登校坂から周南市を見渡し、いつも癒されています。

◆ご家族は？

現在、実家で6人暮らしです。

◆ご趣味はなんですか？

スポーツ観戦、適度な運動、お買い物（小物探しetc）、夜空を眺めて（流れ星見つけたり…）癒されること。

◆今後の抱負をお聞かせください。

毎年新たな自分を発見できるといいな…。10年後にこういう人間になりたいという夢を持ち続け、何事も前向きに取り組みたいです。

編集後記

いつも見慣れた学生や先生、そして、懐かしい卒業生の生き生きと活躍している姿が印象的な号になりました。徳山高専の元気な姿を、保護者や地域の皆様には是非ご覧になって頂きたいと思います。また、在校生の皆さん、本号には先輩や友達の書いた、すばらしい記事が揃っています。校長や先輩から皆さんへのメッセージもあります。できるだけ多くの記事に目を通してください。

ところで、巻頭の写真に驚いている方もあると思いますので説明しておきます。現在、管理棟は耐震補強工事の真っ最中です。また、これを機に教室を広くするための間取り変更工事も行っています。そのため、1、2、3年生は、後期の授業を専門棟裏に建てた仮設校舎で行いました。工事は、関連のものも含めて、3月末に完了する予定です。

新年度から新しい教室で授業が開始されます。新教室で更に生き生きとした学園生活が展開され、次号の「徳山高専だより」で、また、ご報告できるものと考えております。

最後に、年末年始のお忙しい中、本号に執筆頂いた皆様、執筆依頼から校正まで協力して下さった皆様に、改めてお礼を申し上げます。
(T.S)



徳山高専の本科4・5年と専攻科のカリキュラムで構成している「設計情報工学」プログラムが、平成16年5月に国際的に通用する技術者育成に適合するものとして、日本技術者教育認定機構 (JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education) から認定を受け、平成15年度(2003年度)から適用されました。



徳山高専は、平成18年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。この「認定マーク」は、機構の認証評価を受けた大学等が認証評価基準を満たしたことをよりわかりやすく社会に示すために作られたものです。

徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.61

発行 総合企画室

所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台

TEL (0834)-29-6200(代表)

FAX (0834)-28-7605(代表)

印刷 三共印刷

発行日 2008年(平成20年)3月6日

URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology
